

調査報告書

日本語ボランティア活動実態調査

調査対象：
東京都内で活動するボランティア日本語教室
と
日本語学習者及び日本語ボランティア

目次

はじめに	P-1
調査結果のまとめ	
Ⅰ ボランティア日本語教室からの回答・意見	P-2 ~ P-19
Ⅱ 日本語学習者からの回答	P-20 ~ P-30
Ⅲ 日本語ボランティアからの回答・意見	P-31 ~ P-39
調査に協力いただいたボランティア日本語教室	P-40

東京日本語ボランティア・ネットワーク (TNVN)

2018年2月

はじめに

日本語を母語としない方々で日本語を学びたい人は学ぶ場所を求めて、地域のボランティア日本語教室を訪ね日本語の学習に励んでします。

東京都内には300団体（グループ）以上のボランティア日本語教室が各地域で活動をしています。ボランティア日本語教室では在住外国人のみならず、国際結婚の配偶者、日本語学校の留学生、技能研修生、その他各分野の人々が訪れ、日本語学習とコミュニケーションの場となり、また生活上のアドバイスや情報提供などを行っています。

国際化の中 多文化共生社会の到来で、在留外国人はもとより短期間滞在の人も増加しています。

日本語を学びたい人は年々増加しています。

日本語学習支援には区市行政や国際交流協会が取り組んでいますが、学習希望者の求めには十分叶えられていません。また日本語学校での授業は地域で生活する外国人にとっては縁の遠いモノとなっています。

日本語ボランティア活動は地域の多文化共生社会実現に大きな役割を果たしています。

これを実践しているボランティア日本語教室が行政・関係機関の理解ある支援と協力を得て活動し、日本語学習支援を望む方々が一人でも多くの学習の場が得られるよう強く望んでいます。

TNVNが毎年行っている総会や情報・意見交換会では市民レベルで活動をしているボランティア日本語教室から、多数の課題が述べられ、多くの教室は問題の解決を待ち望んでいます。

- ①会場の確保 ②資金の確保 ③教室の運営 ④ボランティア不足とボランティアの高齢化
- ⑤ボランティアの養成 ⑥学習者の増加 ⑦学習者と支援者とのマッチング
- ⑧区市の役所や地域の国際交流協会と協力関係 ⑨地域でのネットワーク

今回の調査では日本語ボランティア活動の実態についてボランティア日本語教室（団体）とそこで学んでいる学習者及び支援をしているボランティアからアンケートに回答と意見をいただきました。

「ボランティア日本語教室ガイド2018東京」発行に伴う調査には 304 団体・教室に調査票を送り、197 団体（245 教室）から、合わせて行ったボランティア日本語教室の実態調査には 184 団体・ボランティア 334 名・学習者 320 名から回答を戴きました。

回答されたデータは正しくボランティア日本語教室の現状を現し、また活動の中で活かせる貴重な意見を戴く事が出来ました。

しかし紙面の都合で代表的な意見として何人かの方となり、全ての意見を掲載する事が出来ませんでした。大変申し訳なく残念です。

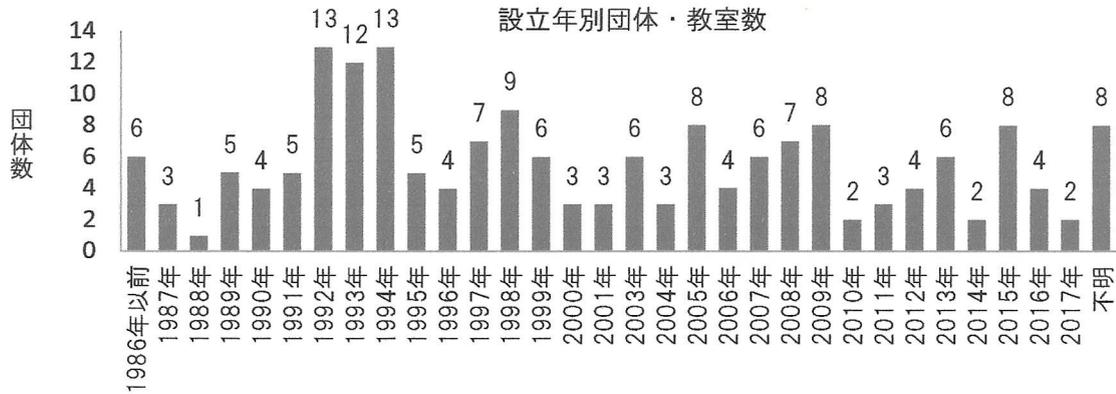
実態調査結果を東京都内で行われている日本語ボランティア活動の状況として報告書に纏めました。

この報告書から、実際に活動をされている方々をはじめ、活動を支援・協力をしている行政・関係団体の方々が情報として共有し、これからのボランティア日本語教室の活動や支援・協力を参考としてください。

I ボランティア日本語教室からの回答・意見

1 ボランティア教室

30年前の1988年以前に10教室のボランティア日本語教室が草の根運動として活動しています。
 25年前の1993年前後の3年間には外国人への日本語学習支援を目的に48教室がスタートし最初の最盛期を迎えています。
 最近の数期間は新規の教室は全体的に少なくなっています。増加する学習希望者への対応が望まれます。



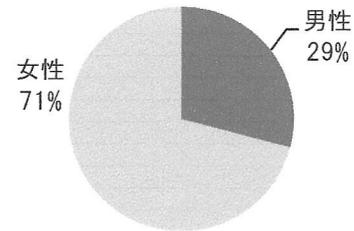
2 人材

教室（団体）で活動しているボランティアの人数

(1) ボランティア数と男女比率

	人数	比率[%]
男性	1,222	29.1
女性	2,981	70.9
総数	4,203	

ボランティアの男性・女性比率



4,200名を超えるボランティアが学習支援をしています。その内7割が女性で主婦が中心に日常生活に直結した活動をしています。男性はリタイア後の人生経験を活かしています。

(2) ボランティア人数と団体数



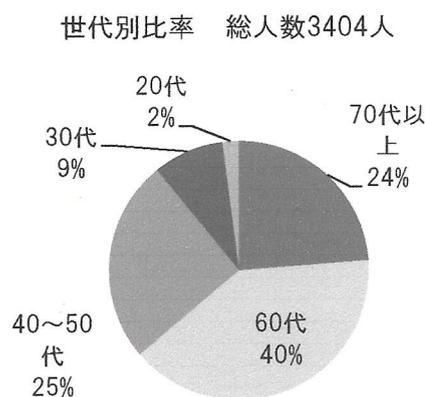
1つの団体・教室で活動しているボランティアの人数は全体的に30名以下ですが、3~10名の少人数の小規模教室が全体の4割を占め、7割が20名以下で、地域の学習支援の場を支えています。

(3)世代別

年齢範囲	人数	比率
70代以上	808	23.8%
60代	1,366	40.1%
40～50代	861	25.3%
30代	299	8.8%
20代	70	2.0%
総数	3,404	

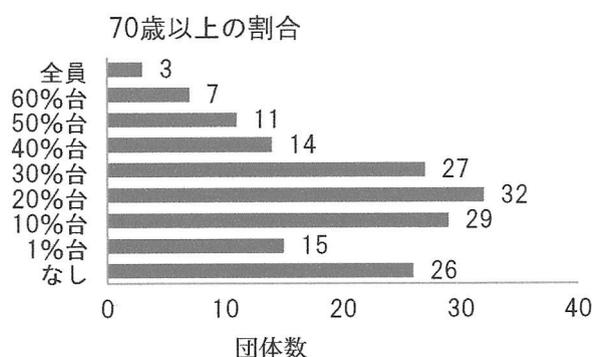
高齢化社会の様相は日本語ボランティアの人材でも例外ではありません。

70歳以上の方々が全体の全体の1/4で、60歳代が4割で、30歳代の若手は1割にもなりません。若手が活動できる場づくりが望まれます。



(4) 教室における70歳以上の割合

割合	教室数
全員	3
60%台	7
50%台	11
40%台	14
30%台	27
20%台	32
10%台	29
1%台	15
なし	26
	164



教室で学習者の支援に当たっているボランティアの年齢を世代別で見ると、70歳以上の教室で全員が3教室、60%台の教室が7教室有ります。全体的に見ると2割前後の教室が最も多い状況です。

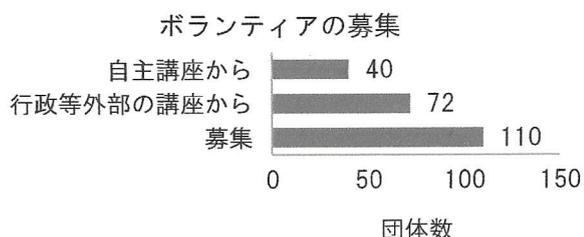
ここからも70歳以上の方々が現役で学習者を支援しています。

(5) 外国人がボランティアとして参加していますか

	人数
いる	31
いない	152

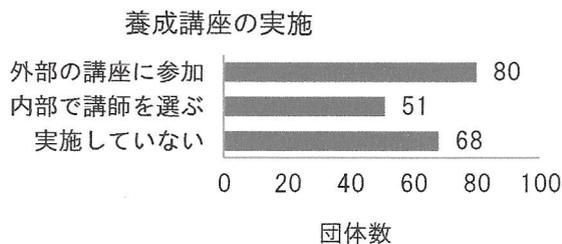
日本語の勉強を始めたばかりの学習者に理解できる言語で対応できない場合、言葉の支援者（通訳等）が必要です。こうした場合、同じ言語の学習者が専属の通訳（ごく少数）が対応しています。しかし2割以下の教室です。

(6) ボランティアの確保はどのようにしていますか



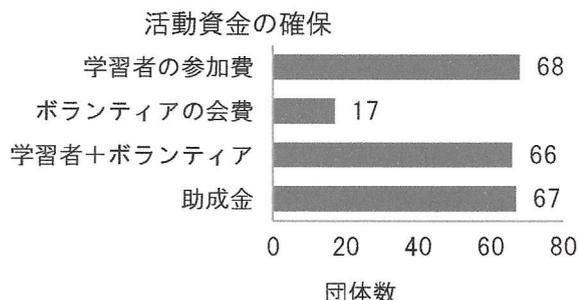
ボランティアの確保は教室運営で不可欠、養成講座の実施は人材確保に大きな役割を担っています。行政等外部が開催する養成講座の参加者から確保している教室が約4割あり、自主講座でボランティアを養成している教室が2割強で、合わせて6割が養成講座を占めています。

(7) 養成講座（ブラッシュアップ）の実施はどのようにしていますか



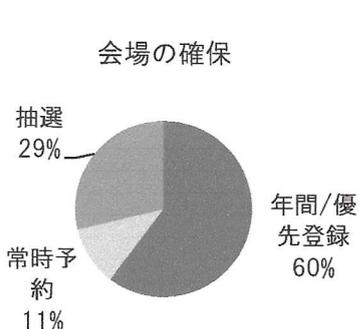
ボランティアの能力向上を目的とした講座を内部で講師を選ぶ場合が4割強、外部の講座に参加3割弱合わせて7割の教室が実施しています。

3 活動資金はどの様にして得ていますか。



教室運営上で部屋代・教材費等の活動資金をどの様に確保しているかを見ると、行政からの助成金を受けている団体が3割、学習者の参加費とボランティア・学習者両方からの会費・参加費がそれぞれ同様に3割となっています。しかもボランティアの会費だけで運営している団体が約1割で、4割強はボランティアが教室の運営費を出しています。

4 活動場所



	団体数
年間/優先登録	109
常時予約	20
抽選	52

人材・活動資金と取り上げましたが教室運営で最も大変なのが会場の確保です。日本語ボランティア活動への理解が不十分で公共施設では一般の趣味講座等と同一扱いされています。年間/優先登録で場所を確保出来ている教室は6割に留まっています。

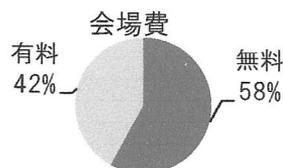
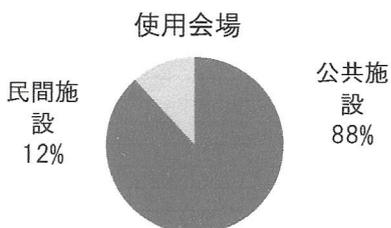
5 使用会場と会場費の負担

使用会場

施設タイプ	団体数
公共施設	157
民間施設	21

会場費

負担状況	団体数
無料	103
有料	75



使用会場は公共施設が9割でボランティア活動で使用出来る施設は限られています。

会場費の無料は行政・自治体の対応による教室が多く、会場の確保と重なる部分が大きく関連しています。

6 ボランティアとの連絡体制

定期的	あり	143
	なし	31
緊急時	あり	163
	なし	13

ボランティア間の連絡は定期的・緊急時ともにほとんどの教室が持っています。連絡手段は電話・メールが中心です。

定期的な連絡は定例の会議・打合せや活動日に、またFacebook,LINEなどSNSを利用しています。

7 広報活動 (教室案内等)

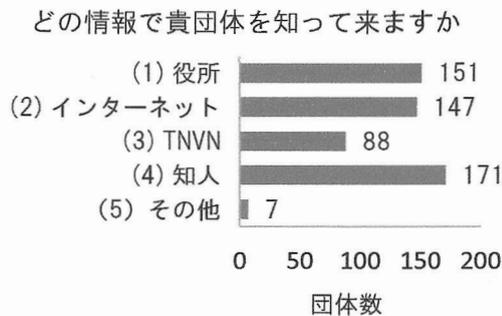
役所広報	112
HP	90
あり	126
なし	17

教室案内等の広報活動をしている団体は約7割で、その内6割は役所の広報を通して周知されています。

独自にHPやFacebookで教室案内をしている団体も増えています。

8 学習者

(1) 学習者はどの情報で貴教室の存在を知って来ますか (複数回答)

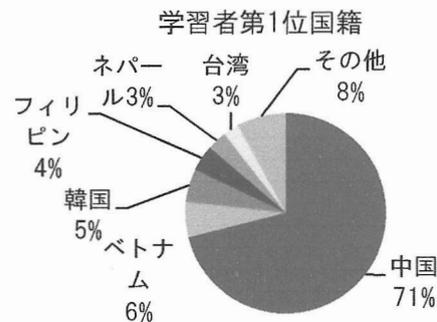


日本語の学習を希望する人は多くの情報元を頼って、希望するボランティア日本語教室を探します。

中でも知人・口コミ等が最も多く、役所での紹介やインターネット検索を通して教室を訪ねるケースも同様に多くなっています。

(2) どの国からの学習者がいますか (国籍が多い順位)

第1位	団体数
中国	135
ベトナム	11
韓国	10
フィリピン	8
ネパール	6
台湾	5
その他	15



1位	2位	団体数
中国	韓国	32
中国	ベトナム	29
中国	台湾	18
中国	フィリピン	18
中国	ネパール	11
ベトナム	中国	8
韓国	中国	6
フィリピン	中国	6
中国	タイ	6
中国	アメリカ	4
中国	バングラディシュ	4
台湾	中国	3
中国	インドネシア	3

近年世界各地から様々な目的を持って来日する人が増加し、変化しています。その傾向はボランティア日本語教室にも大きく影響しています。

学習者の国籍も様々で世界経済や国家間の関係にも依り変化しています。

各教室に来る学習者の国籍も変化しています。

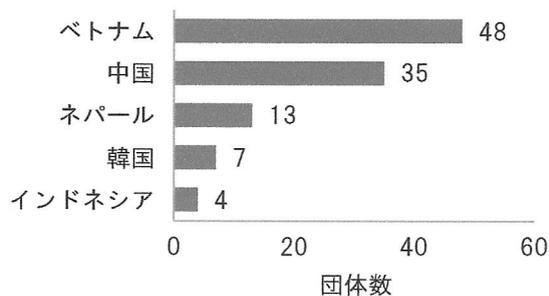
国籍の多い順に回答を貰いました結果

①中国籍の人が最も多いと挙げた教室は135団体(7割)

②ベトナム・韓国籍の人が最も多い教室は各々10、11団体です。

③韓国籍の人がかなり減少し教室の様相が変化しています。

(3) 最近特に多くなった国（国名）



最近特に多くなった学習者はベトナム国籍の人で中国国籍の人を上回っています。48教室（全体の1/4）にもなっています。後でも触れていますが急増の要因は技能実習生がボランティア日本語教室で日本語を学習する状況が出ていると考えられます。調査では為されていませんが教室での対応に影響が出ています。中国国籍の人が増えている教室が35教室ありますが、学習者が第1位になっていることに繋がっています。

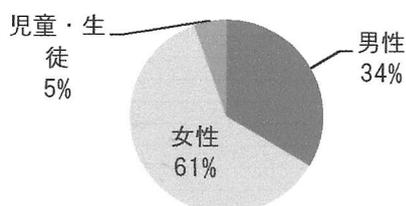
(4) 学習者の人数

男性	1783
女性	3250
児童・生徒	289
総数	6678

ボランティア/学習者比率[165団体]

ボランティア	学習者	比率
4107	6678	1.63

学習者比率（男性/女性/児童生徒）
団体数：148

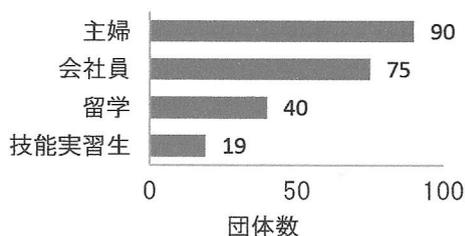


学習者を性別で分けると女性が男性の倍近く6割を占めています。児童・生徒への支援をしている教室が5%ほどあり、小中学生を対象とした教室が2教室が調査対象に含まれています。

学習者とボランティアの比率が1.63 でボランティアが複数の学習者を同時に支援しています。調査Ⅲ-2：ボランティアへの質問・・・学習者との関わり を参考にして下さい。

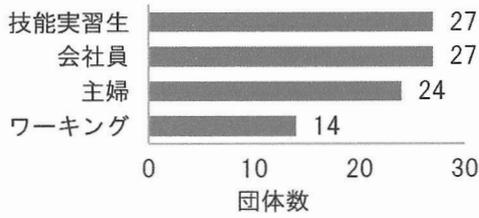
記：設問が不明確なため学習者の人数（最近の年間平均数）の中で年間の累積合計数と思われる団体がありました。この場合提示数字の10%を人数として積算しました。従ってこの項は参考データとします。

(5) 学習者には会社員、主婦、留学生、ワーキングホリデー、技能実習生等様々な立場の人がいます
①どの立場の人が多いですか



学習者で最も多いのは日常生活の中で日本語を使う主婦が最も多いのですが、最近会社員がかなり多くなっています。日本語学校で日本語を学ぶ留学生も地域によりふえています。

②最近特に多くなった立場の人は



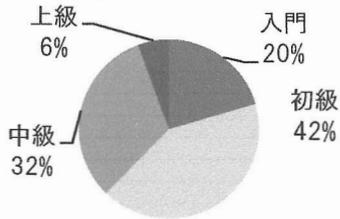
①で挙げているように技能実習生と会社員（特にIT関係）が最近特に多くなっている事が多くの教室で現れています。最近多くなっているワーキングホリデーで来日した若者が日本語学習を通して日本文化に接する機会を求めています。

(6) 日本語能力がどの程度の学習者が多いですか(多い順位)

第1位	団体数
入門	33
初級	68
中級	52
上級	9

第1位	第2位	団体数
入門	初級	26
初級	入門	30
初級	中級	35
中級	初級	35
中級	上級	10
上級	中級	5

どのレベルの学習者が最も多いですか



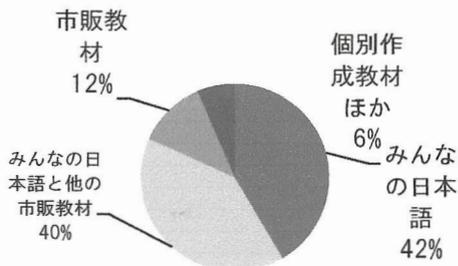
学習支援の対象となる学習者が最も多いとしている教室は初級レベルと中級レベルの学習で、加えて入門レベルも多くなっています。ボランティア日本語教室での学習支援は入門レベルから中級レベルと幅広く学習を支援し、多くの教室で独自の対応をしています。上級レベルの学習者を中心に対応している教室もある事が分かります。

9 学習支援

(1) 使用する教材は決めていますか

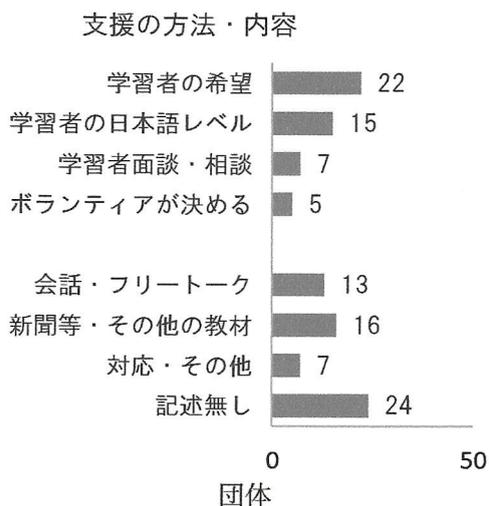
① 教材を決めている	77
みんなの日本語	32
みんなの日本語と他の市販教材	31
市販教材	9
個別作成教材ほか	5

学習支援の教材を決めている団体・教室は77、決めていない団体・教室は115（内容は重複）で、決めている教室団体が4割です。



8割が「みんなの教室」を中心に教材を決めて学習支援をしている。残り2割がその他の市販教材や個別作成の教材を使用しています。

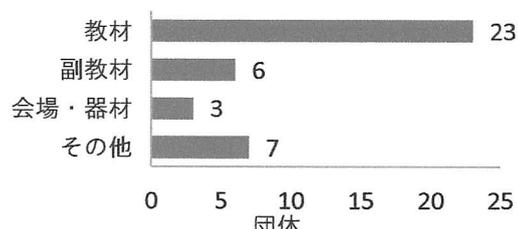
② 教材は決めていない 109



学習者への対応として、学習者の希望・日本語レベル・面談・相談等を受けて教材や内容を決めています。

支援の内容では会話・フリートークを希望する学習者も多く、日本語レベルには関係しません。中上級クラスでは新聞等・その他の教材と生活に密着したものが使われています。

③ 教材として望まれること 39



下記の希望が寄せられています。(抜粋)

・短期間で生活に必要な日本語が勉強できるもの(ネパールの学習者が増えているため)

・例えば3週間のサバイバル日本語教材が欲しい。

・生活に密着しているような教科書をいつも探しています。

・絵が多く分かりやすい、実際にコミュニケーションに使えるもの

・コミュニケーションを主体とした教材

・ボランティア日本語教室で役立つ内容：文型重視でなくコミュニケーションの参考となる内容の教材

(2) 学習支援活動でインターネット(SNS)を活用していますか

あり	43
なし	130

インターネット(SNS)の利用は広い分野で幅広く普及しています。学習の場でも学習者やボランティアは個別に活用しています。

・フェイスブックページで情報発信している。・LINE等を生徒との連絡に活用

・情報収集

・資料収集

・教材づくり

・日本文化の知識習得

・ことばを調べる。

・教材教案の参考

・単語や画像の検索

・個人的に映像を見せたり、ニュースをみせた。・・・

(3) 教室又は教室の外で日本語支援以外の交流活動をしていますか

いる	107
なし	71

交流会(新年会・忘年会・クリスマスパーティなど)(16)

料理教室(15) 花見(12) 遠足・ハイキング(14)などの交流活動が多く為されています。

一方地域の交流として

・区主催の国際交流サロンや国際交流のつどい

・ボランティア団体の交流会

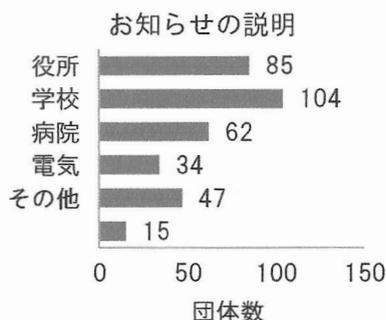
・防災教室

日本文化については

・生花、茶会など日本文化の体験イベント

・日本の古典芸能鑑賞・・・

(4) 役所・学校・病院等のお知らせ・その他について学習者から説明を求められますか。



個々の説明は個々のボランティアに求められています。学校からのお知らせ・その他が最も多く 半数以上で説明を行っています。

- ・学校のプリント類、受験の手続きについて
- ・生活に関する質問があります。一番多いのは学校からのお知らせが分からない。

役所に関しては各種の問合せ・質問が出ています。

- ・税金、ゴミ廃棄、在留資格
- ・乳幼児検診、予防接種
- ・年金や保険のこと
- ・年金や保険のこと

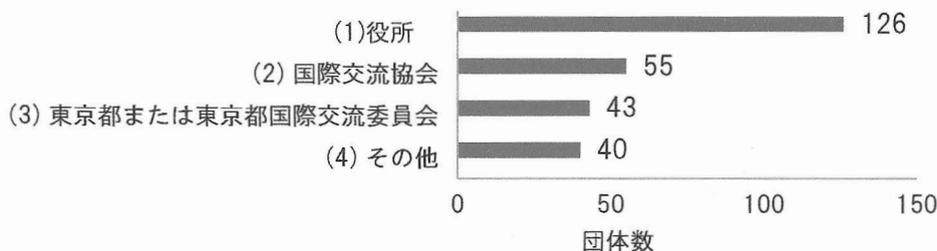
子どもに関する問合せも多く紹介されています。

- ・保育園・幼稚園の申込方法・手続き
- ・子どもの進学

日常生活面の相談・質問も多く ボランティアはその都度対応しています。

10 外国人のための情報

(1) 外国人のための情報はどのようにして得ていますか。



日本語ボランティア活動を進めていく中で区市の役所からの情報は欠かせないモノになっています。

地域の国際交流協会や東京都又は東京都国際交流委員会から情報は必要の都度得る事で 2~3 割程度です。

その他では地域のボランティアセンター・多文化共生センター・ボランティア連絡会・ネットワークがあり

その他では他の日本語ボランティア教室からの情報を得ています。

(2) インターネットの活用

インターネットにアクセスする 57

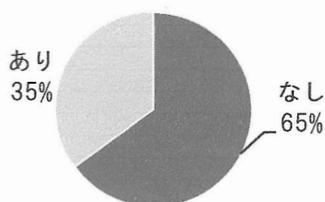
必要に応じて個人的にアクセスすることが多いと思われます。

各地の区役所、文化庁、外務省、国税庁、観光協会、中国帰国者支援交流センター、かながわ国際交流財団、福祉協議会、TVAC等の機関に。

また教材に関連して、NHK NEWS EASY、みんなの教材、はたらくためのほんご、東京外語大言語モジュール、MATCHA等へのアクセスが紹介されています。

(3) ボランティアが必要に応じて情報を取りに行きますか。

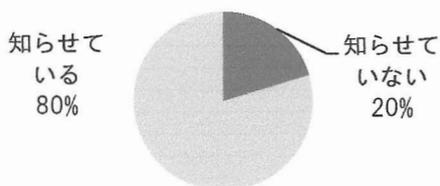
あり 40
なし 74



ボランティアが直接役所等に行く情報には以下のモノが紹介されています。

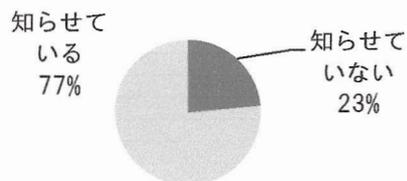
各種サービス、制度、年金、各種手当、保健所病院、多言語での医療機関情報、区のパンフレット等、言語別の区報etc、催し物・イベント・行事、幼稚園、保育園、外国人の言語で書いてある地図など、防災、ゴミ処理方法、マイナンバー制度、健康保険等

(4) 行政・公的機関からの情報を学習者に知らせていますか。



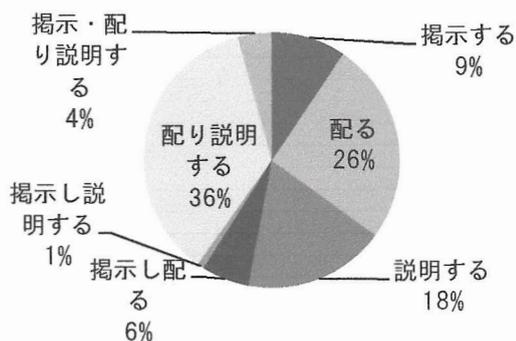
知らせている	137
知らせていない	35

(5) 多言語情報紙（やさしい日本語を含む）を学習者に紹介していますか。（広報、刊行物、チラシ等）



知らせている	127
知らせていない	39

多言語情報を学習者に紹介する方法



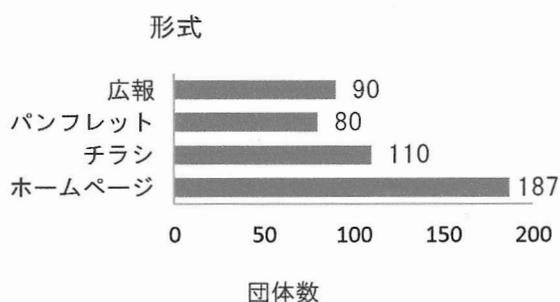
掲示する	11
配る	30
説明する	21
掲示し配る	7
掲示し説明する	1
配り説明する	42
掲示・配り説明する	5

学習者への多言語情報を紹介する方法はただ掲示するだけではなく、ほとんどの教室では学習者が理解できるよう説明と配布に気を配っています。

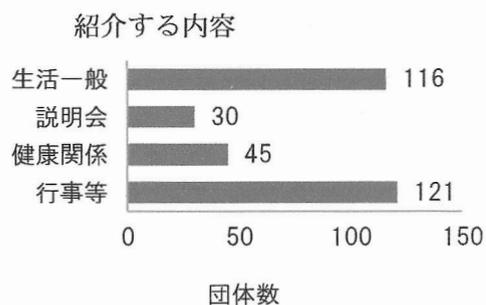
資料枚数が少ない場合は説明を、多い場合は配り説明をしています。

(6) 得る情報の形式・内容はどのようなモノですか

① 形式

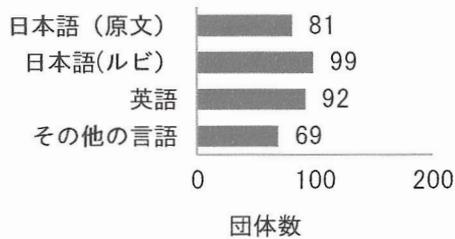


② 内容



③ 言語

多言語情報誌の言語



得ている情報は学習者の関心がある行事や生活一般のモノが中心です。

得る情報は広報からのモノも有りますが、パンフレット、チラシ等も同じ程度で、ホームページからの情報収集は欠かせないようです。

一方得ている多言語情報紙を言語面からみると日本語(原文)、日本語(ルビ付き)、英語、その他の言語 とほぼ同数で多言語化が進んでいるとは言えません。

(7) 言語情報がわからない人に必要な行政情報をどのようにして伝えますか。

<記述紹介>

わかりやすい日本語を使って伝える

- ・ 分かりやすい日本語で説明努力する。
- ・ グループで担当ボランティアが説明(やさしい日本語/媒介語で)
- ・ やさしい日本語に読み替えたり学習者母国語に翻訳して伝える。

絵やスマホを使って伝える

- ・ 個々に絵や地図を示して丁寧に説明している。
- ・ スマホ翻訳アプリを利用する。
- ・ 特になし(学習者が個々にインターネットで調べているから)

日本語のわかる学習者に伝えて貰う

- ・ 同じ国の人で日本語の分かる学習者に通訳を頼む。
- ・ 上級学習者を通して伝える。
- ・ 英語がわかる人には日本語と英語で伝えます、または電子辞書で該当言語を調べる。
- ・ 学習者の身の回りの人で情報について説明できる場合が多いのでこちらではサポー程度。

通訳ボランティアに依頼する

- ・ 語学が出来るボランティアがサポートする。
- ・ 通訳、翻訳ボランティアが対応するケースある。

一方で行政情報についての意見として

- ・ 特に行政情報を学習者に伝えるようなことはしていません。
- ・ 日本語教室で行政情報を伝える時間が無い。

(8) 行政情報等を説明するとき、必要な行政用語・日常用語を学習者にどのように伝えますか。

具体的には行政用語を伝えるのは難しく

- ・ 上級授業に必要な行政用語を入れて教える。
- ・ 必要に応じて市役所窓口へ案内する。
- ・ 現状 直訳するしかない。
- ・ 行政用語、日常用語について説明しながら伝える。 ・ 区の情報紙を使用する。
- ・ 中国人が多いので漢字を用いて説明、インド人等は英語で伝える。
- ・ TNVN発行「わかる日本語」作成のための冊子を利用している。
- ・ 行政のパンフレット チラシを配布する。

(9) 行政等から緊急時の対応方法等の冊子などが出ています。どのように使っていますか。

<記述紹介>

防災訓練を实践

- ・冊子を配る「外国人のための防災体験」に参加させる。
- ・防災訓練の時、プリントを渡したり説明したりする。
- ・行動の手順を身振り等で説明する。
- ・東京防災（英語版）配布、個人配布および行政担当者を招いて説明会を開く。

学習時間内で

- ・防災の日近辺で紹介・説明する。
- ・必要に応じて活動中に紹介することもある。
- ・日本語教室で配布しボランティアと学習者が一緒に読む。
- ・全体学習をしたり、個々に学習したりする。
- ・新聞などの記事を教材の一部として使うことがあります。

冊子・資料の配付

- ・東京防災（英語）配布
- ・防災に関するテキストあり（ボランティア作成）
- ・中日英韓等が有るので近い言語を個別配布
- ・配布するだけで、教室で学習することはありません。

掲示

- ・教室内に掲示してあります。

これから

- ・現在は教室活動でそのまま使用していません。避難マニュアル作成時に参考にしました。
- ・まだ使っていないが防災訓練に参加して貰う。

(10) 学習者が持ってくる情報に何が有りますか。

<記述紹介>

学校に関するモノ

- ・学校等生活情報が多い。
- ・学校からのお知らせ、学校へのレポート
- ・学校からの印刷物の説明
- ・学校のお便り、入学や卒業の案内など学校や子どもの生活にかかるもの。
- ・学校や保育園関係の書類を持って来て相談を受けることが多い。

自国文化の紹介

- ・日本で開かれる自国のフェスタの案内
- ・自国の生活全般
- ・地域または自分の属するコミュニティのイベント情報
- ・自国で勉強した現地語の日本語教材

日常生活に必要な情報

- ・健康診断案内、給付金案内、公共料金支払所
- ・不動産賃貸情報、求人・就職情報、履歴書

(11) 災害時の対応について、使用施設などと連携や協力を決めていますか。

＜記述紹介＞

使用施設との関係

- ・災害対応は使用施設の指示に従う。
- ・クラス代表が施設担当者とは打合せあり。
- ・決まりはあるが訓練が必要
- ・決めておりません 施設側と電話連絡をとる。

防災行事

- ・外国人向けの講座を実施しているので、お知らせを配布しています。
- ・起震車で年に一度地震体験（杉並消防署の協力）
- ・区の防災課による防災教室を催している（年1回）

(12) 行政情報を外国人が理解し、行動するために多言語（英・韓・中）のほかに「やさしい日本語」は必要と考えますか。

＜記述紹介＞

- ・絶対に必要と思う（一般の人との接触でコミュニケーションがとれないと災害時などに困る。
- ・多言語情報がわからない人のために必要と考える。
- ・「やさしい日本語」しか理解できない人には必要かも知れない。
- ・英・中・韓以外がない場合は必要です。
- ・3か国語以外の方が理解できるようになったものが必要です。
- ・必要である。もっと活用する事が大切だと思う。
- ・必要だと思う。特に各施設に「やさしい日本語」が話せる人が必要です。
- ・有った方が良い。
- ・ベトナム、インド、バングラディッシュ、インドネシアの人が増えているので英語の分からない国の人は必要だ。
- ・有るに越したことはないが、オリジナルと違うと薄い情報と思われる。当人達が見たいのは母語情報
- ・中国人が多いのでむしろ漢字の通常の日本語の方が分かりやすい。
- ・日本語を覚える機会にもなるので必要だと思います。
- ・ルビがあれば大丈夫です（ひらがなカタカナは読める人が多い）
- ・どうしても必要とまでは思わない。
- ・緊急な情報が母国語の方が間違った理解をしないので正確性から必要ない。

(13) 外国人に向けた行政情報についてのご意見ををお願いします。

＜記述紹介＞

情報発信の状況について

- ・外国人が必要としている情報とは何か、それを知る必要がある。
- ・行政地域によって対応が様々である事を実感しています。
- ・HPなどに自動翻訳で不自然・読解不能な英文が掲載されていたり、現実的には有効でない情報があるように感じる。
- ・全く日本語がわからない外国人家庭に(英語可)保健所から健診・予防接種のお知らせ等日本語のみの手紙を出していた。
- ・詳しい説明以前の図を多用しかサマリー的なモノが欲しい。

多言語情報の発信について

- ・HPなどに自動翻訳のまま不自然・読解不能な英文が掲載されていたり、現実的には有効でない情報があるように感じる。
- ・多言語情報で広報できる対応の迅速化を期待する
- ・多言語化とネット対応を推進して欲しい。未成年でも参加出来る日本語教室の情報
- ・ベトナム、バングラディッシュ等の国の人は、現在の多言語の中に入れてもらい役に立ちたい。
- ・健康診断の記入用紙なども多言語で対応してほしいとの希望が出されたことがあります。

(13) 外国人に向けた行政情報についてのご意見ををお願いします。(つづき)

区市個別の対応

- ・西東京市では外国人向け暮らしの情報を毎月発行、日常生活での多言語ガイドブックを発行しているが、この更新を毎年依頼します。
- ・武蔵野市は外国人市民のための市報を月1回発行しています。分かり難いので、日本社会について知らないことを前提に作成すべきです。
- ・小平市の場合は市の国際交流協会を通して行政情報の発信が行われており、留学生寮や我々の活動を通じて個々の外国人に情報を伝えている。外国人向け情報、日本人向けの多文化理解のための情報などよりキメ細かい情報の発信が望まれる。

やさしい日本語を使ってほしい

- ・区(手続き用紙、手続き方法)の広報(公報)は日本人にも難しい表現があるのでぜひやさしい日本語にして欲しい。
- ・作成する側(行政サイド)が「やさしい日本語」について学ぶことが出来たら情報の出し方も変わってくるのではないのでしょうか。

情報を知らせる

- ・「行政情報」の範囲がどのようなモノかわからないから、教室で個別に生活上していると良いこと(ゴミ出し、救急車、警察への電話、地震他)を話題として学習している。
- ・口頭での説明だけでは十分理解されないので体験のイベントに参加する等広報活動も望ましい。
- ・ネパールなら日本にいるネパール人用のインターネットサイトもあるのでそんなところと連携したら良いのでは。

ボランティア日本語教室にも

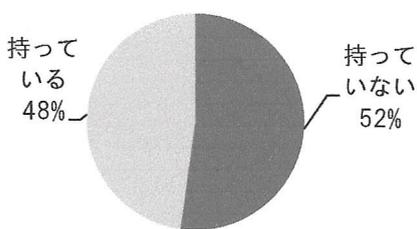
- ・外国人に向けた行政情報をボランティアの日本語クラスにも送って欲しい
- ・安全・災害・サポート情報・外国人向けなどの情報を流して欲しい。日本語ボランティア教室の周知に協力して欲しい。

情報交換

- ・最近特にスマホなどで外国人同志で情報交換をみつにしているなど感じる。

11 国際交流協会・支援団体との連携・協力

日本語学習支援のためにどのような連携・協力関係を持っていますか。



持っている	76
持っていない	83

<記述紹介>

情報提供・情報交換

- ・年2回市内日本語教室連絡会に出席
- ・区内の日本語教室と情報交換
- ・研修会に相互で参加、情報交換会(年1回)
- ・協会主催のボランティア講座での各教室の紹介
- ・電話・メール連絡で生徒情報を知る。
- ・区内のボランティア教室(17団体)で困った問題などが出たときはあつまって話合っている。

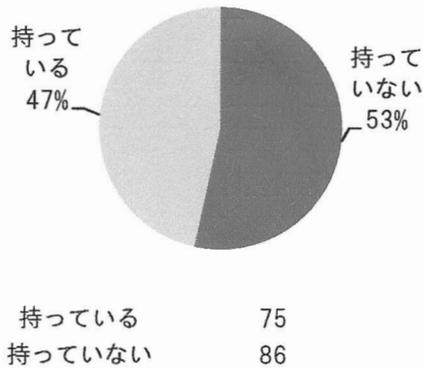
連絡会の開催

- ・区が主催する国際交流団体連絡
- ・区とボランティア団体との協議会を開く
- ・区が連絡会構想を持っており、支援する方向で会議に出席

行事・イベント

- ・協会主催行事への参加・協力、学習者の紹介

12 他の団体・機関とどのような連携・協力を持っていますか。



公共団体

・社会福祉協会 ・ボランティアセンター ・国際交流協会

役所

・区役所（墨田区、世田谷区、文京区） ・市役所

連絡会

・多文化共生センター

・ネットワーク（TNVN、TAMA日本語共育、江東、ぶんきょう多文化

ボランティア日本語教室

・多数

その他

<記述紹介>

情報交換

- ・2カ月に1回の会議で情報交換
- ・区に有るボランティア教室の連絡会
- ・学習支援方法やボランティア募集情報の共有
- ・学習者に関する情報共有、活動紹介、研修の共有
- ・ニュースレターを通して情報入手

講習会

- ・教授法講習会、情報交換
- ・問題点があればその団体から連絡あり集まる。

13 連携・協力についての現状と今後についてご意見がありましたらご記入下さい。

<記述紹介>

連携の強化

- ・他の団体との連携・協力を推進するために交流する場が欲しい。
- ・近隣市町村の同様ボランティアとの非定期会合
- ・小平市国際交流協会や近隣の日本語ボランティアの会と一層密な連携をして行きたい。
- ・実務的連携が必要
- ・国際交流以外の子育てなど他の分野で活動している人たちとの連携
- ・協力関係を持ちたいが術を知らない。
- ・持ちたいと思うがチャンスがない。

情報交換の場

・足立区には学校・行政とのコーディネーター的役割の人材がない、縦横の繋がりを密にし情報共有が必要

- ・様々な人と学習者が接点を持つことでブラッシュアップが出来ればと思っています。
- ・区が「多文化共生事業連絡会」を今年度新設、2回ほど会合（顔合わせをもった。
- ・小地域だけでも横の連絡を取りたいと思うが、相手方の意志もあるため？
- ・近くの教室等での活動内容を知りたい、体験談等も知りたい。
- ・定期的に地域毎の情報交換会、視察など

場所の問題

・日本語支援のための教室を優先的に貸して欲しい。

スキルアップ

- ・講演、講習会にてスタッフの技術レベルの維持と向上をお願いしたい。
- ・様々な人と学習者が接点を持つことでブラッシュアップが出来ればと思っています。

現状について

・関係がマンネリ化しないようなテーマを見つけて様々な切り口で相互理解を深める。

14 役所からの支援と連携・協力

(1) 教室活動をするための支援を受けていますか。 支援の内容は

1つの教室運営で活動資金と活動場所について取り上げました。

回答数：131 支援の内容記述：95 受けていない・なし等 38

ここでは役所からの支援内容の具体的例を挙げます。

助成金・補助金、教室の確保等個別の支援多いのですが以下のように複数の支援を受けているところが有ります。

<記述紹介>

会場と助成金（補助金）

- ・会場提供 補助金
- ・補助金支給と活動場所の無償提供
- ・教室確保や補助金支援を受けている。

備品・教材で

- ・教室提供、図書貸与、コピー機使用
- ・拠点の使用（無料）、備品の使用
- ・会場の提供、コピー代を安くして貰っている、年一回書籍を購入して貰っている。
- ・教室の無償提供 教材費支援（年間1万円）

広報で

- ・会場の確保と広報
- ・補助金、窓口でもの教室案内パンフレットの配布
- ・優先予約・資料配布・公報掲載
- ・教室の情報をHPなどに載せて貰っています。

養成講座

- ・助成金、講座の開催
- ・講師養成、教室の予約
- ・場所の予約（確）、区主催の「ボランティア養成講座」修了生による教室ボランティア補充（毎年）
- ・ボランティアセンターから支援助受け 設立案内チラシ配布、助成金、講座
- ・希望教材の支給、初級講座で新規ボランティア募集、中級講座でブラッシュアップ
- ・日本語を教えるための養成講座（ボランティア要員を増やす）
- ・ボランティアのフォローアップの講習

ボランティア保険

①集会室（会場）の使用料全額免除（②ボランティア保険の保険料免除）

連絡会の開催

- ・教室の場所の無償提供や連絡会、お知らせなど

その他単独で広報

- ・区の外国人向けメルマガ等に掲載して貰う予定
- ・チラシを置く／チラシを作って貰っている。
- ・社会福祉協会発行の情報紙「ボランティアめぐろ」に情報を載せて貰っている。
- ・多文化共生係経由で情報を得ている。

(2) 役所から行事等での協力

回答数：122 記述あり：72 とくになし・ない：50

<記述紹介>

区市の行事等にお手伝い・協力

- ・区のまっりの手伝い
- ・公民館主催の市民文化祭で行うイベントへの協力／バックアップ
- ・区の施設のフェスティバルの手伝い
- ・国際交流会のお手伝い
- ・福祉祭り等の行事で協力

外国人対象の行事

- ・外国人向けのイベントの人数集め等
- ・外国人を対象のイベントへの参加
- ・外国担当課から文化イベントなどの声が声かけがある

(2) 役所から行事等での協力 (つづき)

日本語スピーチ大会への参加・協力

- ・スピーチ大会、日本語教師養成講座、外国人との区民の交流サロン等に学習者共々協力
- ・スピーチ大会への参加
- ・日本語スピーチ大会への協力

行事に参加

- ・市文化事業他に参加・協力
- ・年1回国際交流まつりに参加している
- ・バザー等の行事参加依頼がある
- ・交流協会の行事などに参加

防災関係

- ・災害ボランティア活動
- ・防災訓練等

その他

- ・外国人への資料配布、通訳ボランティアの紹介
- ・学習者の意識調査・アンケート
- ・区教育委員会との会合出席、ボランティア団体との交流
- ・ワークショップ等の参加依頼に応じている。
- ・講座の開催で協力
- ・各行事を共催で行っている。
- ・諸行事への参加・協力の依頼等
- ・チラシの配布
- ・勉強以外行事を行わないので協力は必要なし

(3) 役所災害時の対応について話し合い・連絡はありますか

回答数：135 記述あり：37 あり：12 なし・特になし：86 計：135

<記述例>

訓練の実施・参加

- ・「成人日本語教室」「高校入試支援教室」それぞれで避難所へ行ってみる時他話し合い。「JSL教室」は場所を借りている品川区立山中小の避難訓練に参加させて貰っています。
- ・1期の最後にイベントとして防災・地震など
- ・訓練時市の担当の協力
- ・防災教室を開催した。
- ・防災訓練を共催で実施

参加要請

- ・「要請があれば説明会に出張する」との文書が来ている。
- ・演習などへの参加要請

説明会・話し合い

- ・共同で説明会等を開催（最低年1回）
- ・年2～3回 市とTIC日本語ボランティアとの話し合いがある。
- ・年集会区と教室との連絡会（代表者と区職員との）がある。
- ・防災訓練時話し合いをする程度
- ・防災講座の実施
- ・役所が説明会・話し合い

広報とのお知らせ

- ・広報等の一般的なお知らせ
- ・チラシで連絡が来ます。
- ・防災訓練実施のチラシ
- ・パンフレットが配布される。
- ・パンフレットや講座の案内を配布
- ・避難訓練情報の連絡
- ・避難所運営訓練の日程・場所の連絡有り
- ・連絡有り
- ・連絡は貰うが対応はしていない。

その他

関係財団からの情報提供がもう少しあっても良いと思う。

多言語情報センターの設置について協力

時折あるのですが学習者はなかなか生活時間タイムで参加できそうにありません。

15 貴団体の地域社会との繋がりについて

(1) 学習支援で新たな活動に取り組んでいますか。

回答数：108 記述あり：36 取り組んでいます：2 取り組んでいない・特になし：70

<記述紹介>

小中学校との関わり

- ・外国人児童への日本語支援
- ・外国人を含む小中校生の学習支援
- ・外国人の生徒学習と同様に生徒の保護者への日本語指導をしている。
- ・市内小学校への国際理解授業のための外国人学習者の派遣
- ・地域の小中学校から外国人生徒を受け入れ日本語支援をしている。
- ・学校よりの支援要請には適時応じている。
- ・児童委員、民生委員を通じた日本語指導が必要な子どもの発見

他の教室とのつながり

- ・市内の他の日本語教室と協力して日本語発表会を行う。
- ・区内教室との連携を計画中
- ・地域内ネットワークに努めている。

その他の繋がり・取り組み

- ・技能実習生への指導 委託
- ・夏休みのボランティア体験の実施
- ・多言語絵本の活動
- ・外国人のためのサロンを開設
- ・お祭りの出店やチャリティーイベントの開催など
- ・外国人のための”生活便利帳”の作成など
- ・行事等で都内めぐりなど
- ・今後考えたい。
- ・まだ始めたばかりなので、まだ新たな活動までは至っていない。
- ・やりたいが、時間が取れない、全員（ボラ）が働いているため。
- ・なし（時間が無くて無理のようです）

(2) 地域での行事への参加

回答数：128 記述：77 特になし：16 ない：33 参加している：2

<記述紹介>

地域の祭り・イベントへの参加

- ・くにたち市民文化祭への参加（学習者による日本語スピーチ大会開催）
- ・会場である江東区総合区民センター主催の外国人対象イベントへの参加案内・協力など
- ・教室を借りている「バルシティ江東（区立）」の行事にサポーターとして参加
- ・台東区ボランティアフェスティバル（毎年4/29実施）への参加
- ・かつしか国際交流まつりの実行委員会メンバー
- ・すみだボランティアセンター行事に参加
- ・調布よさこい、市民駅伝、ほかイベント
- ・区主催の行事やボランティア祭りなどに参加している。
- ・区主催 国際祭りには積極的に参加
- ・区民祭りイベント参加
- ・コミュニティ会館等の開催する行事への参加
- ・さくら祭りの参加
- ・市の文化行事他に参加・協力
- ・公民館まつりに参加、青年会議所主催のイベントに協力、
- ・地域のお祭りへの参加、地元高校生のボランティア参加など
- ・流鏝馬などの行事に参加（見学）

日本文化

- ・茶道、能など日本文化に興味のある学習者を地域行事に同伴

(2) 地域での行事への参加 (つづき)

外国人との交流会

- ・外国人と市民との交流会開催に参加
- ・区の国際交流の集いに参加(主催者として)
- ・地域の国際交流フェスティバルへの出店参加
- ・国際交流協会のイベントへの参加
- ・小平市と市国際交流協会共催の外国人日本語発表会に学習者の積極的参加を呼びかけ参加している
- ・区の国際交流イベントへの参加を検討したいと考えている。

福祉祭り等

- ・福祉祭り、元気フェスタ、フードグランプリ
- ・社協と協力体制
- ・夏祭り、福祉まつり、ボランティア連絡協議会
- ・「みんな集まれふくしまつり」「地域でつながるみんなの暮らし展」
- ・ボランティアセンター主催の行事への参加 夏祭り
- ・杉並のイベント紹介、ボランティアセンターのイベントに参加

(3) 外国人コミュニティとの関わり

特定団体との関わり

- ・中国残留孤児団体への支援
- ・同歩会(残留孤児の団体)

留学生との関わり

- ・近隣の留学生寮
- ・留学生を中心とする(日本語学習に来ている留学生より)

交流会等で

- ・外国人と市民との交流会開催に参加
- ・各国によるイベントに参加しています。
- ・公民館活動の参加
- ・市の国際交流連絡会に参加している。

これから

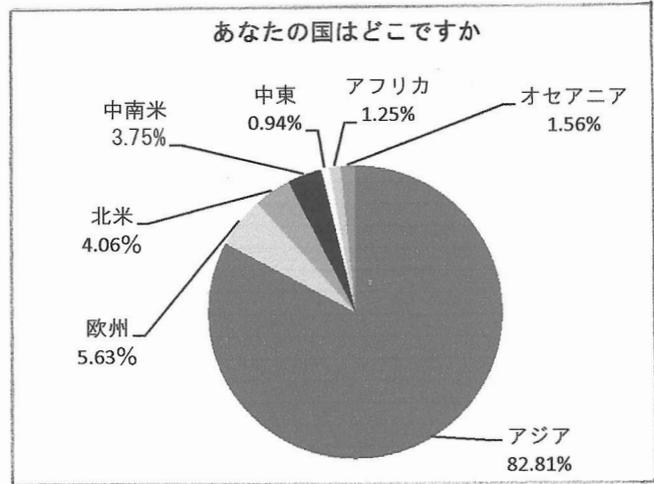
- ・キーパーソンとの繋がり強化を目指す。
- ・今後考えたい。
- ・今の所ない、計画したい。
- ・現在模索中

II 日本語学習者からの回答

1. あなたの国はどこですか。(記述回答：回答数=320人)

■地域別

	人数(人)	割合(%)
アジア	265	82.81
欧州	18	5.63
北米	13	4.06
中南米	12	3.75
中東	3	0.94
アフリカ	4	1.25
オセアニア	5	1.56
	320	100.00



※学習者の国43ヶ国の内8割以上がアジア地域の国である。この傾向は前回調査時(2014年)と変わらない

■地域と国の内訳

地域	国	人数(人)	地域	国	人数(人)	
アジア	中国	126	欧州	イギリス	4	
	韓国	34		ドイツ	3	
	台湾	25		ポーランド	2	
	ベトナム	21		フランス	2	
	フィリピン	14		スイス	1	
	インド	10		デンマーク	1	
	ネパール	9		ロシア	2	
	タイ	6		エストニア	1	
	ミャンマー	6		アルバニア	1	
	インドネシア	4		チェコ	1	
	香港	4		欧州計	18	
	バングラディッシュ	3		中南米	ブラジル	3
	マレーシア	1			メキシコ	3
	カンボジア	1			アルゼンチン	1
日本	1	チリ	1			
アジア計	265	トリニダードトバゴ	1			
		ジャマイカ	1			
		ガテマラ	1			
中東	トルコ	2	ペルー	1		
	エジプト	1	中南米計	12		
	中東計	3	北米	アメリカ	12	
アフリカ	チュニジア	1		カナダ	1	
	ナイジェリア	1		北米計	13	
	カメルーン	1	オセアニア	ニュージーランド	2	
	コートジボアール	1		オーストラリア	3	
	アフリカ計	4		オセアニア計	5	
			Total	320		

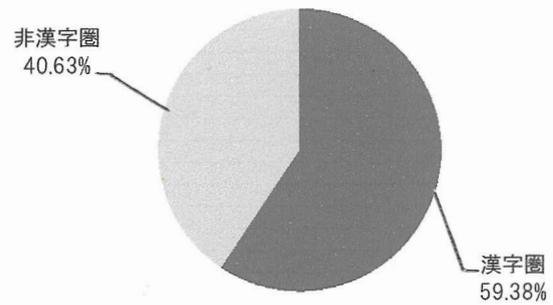
■漢字圏と非漢字圏の割合
※約6割が漢字圏である

	人数 (人)	割合 (%)
漢字圏	190	59.38
非漢字圏	130	40.62

漢字圏：日本、中国、台湾、香港、韓国
非漢字圏：その他の国

※前回調査（2014年）では、漢字圏からの学習者が51.2%、非漢字圏からの学習者が48.8%と、ほぼ同じような割合だったが、今回の調査では漢字圏からの割合が9%くらい増えている。

漢字圏・非漢字圏の割合

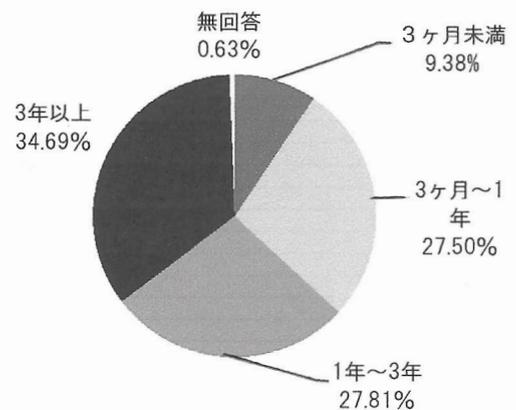


2 日本に来て何年ですか。（単一回答：回答数=320人）

	人数 (人)	割合 (%)
①3ヶ月未満	30	9.38
②3ヶ月～1年	88	27.50
③1年～3年	89	27.81
④3年以上	111	34.69
⑤無回答	2	0.62

※学習者の滞在期間は3年未満が64.69%を占めている。前回調査時は、3年以上滞在している学習者が51%を占めていたので、3年以上滞在している学習者は約16%減少した。

日本に来て何年ですか



3 日本語の勉強をしていますか。

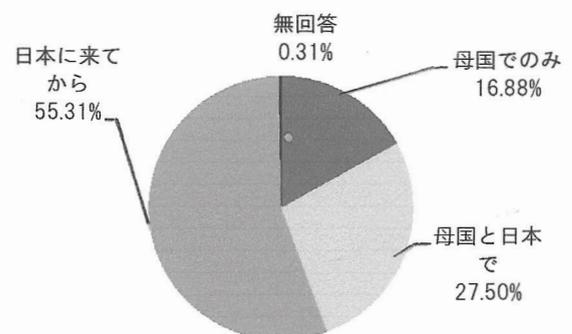
3-1. いつからですか。（単一回答：回答数=320人）

※約5割強が日本に来てから学習を始めている

	人数 (人)	割合 (%)
①母国でのみ	54	16.88
②母国と日本で	88	27.50
③日本に来てから	177	55.31
④無回答	1	0.31

※約55%の人が日本に来てから学習を開始している。前回の集計では約67%の人が日本に来てから学習を開始したと答えていた。日本に来てから日本語の学習を開始した人は約12%減っている。その母国と日本でと答えた人は、前回の調査では約12%だったが、今回は27.50%と、約15%増加している。

いつから日本語の勉強をしていますか

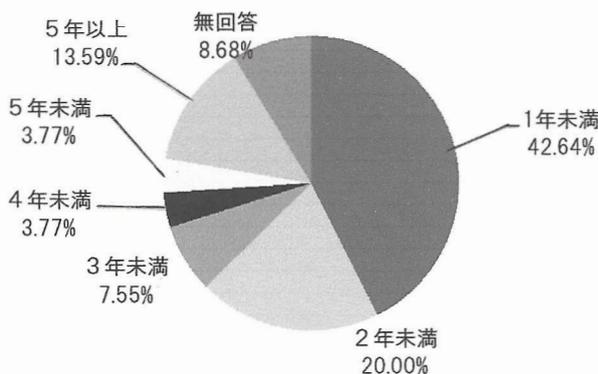


3-1a.日本に来てからの学習期間（単一回答：回答数=265人）

※1年未満が約43%で最も多く、次いで2年未満が20%となっている。

	人数 (人)	割合 (%)
① 1年未満	113	42.64
② 2年未満	53	20.00
③ 3年未満	20	7.55
④ 4年未満	10	3.77
⑤ 5年未満	10	3.77
⑥ 5年以上	36	13.59
⑦ 無回答	23	8.68

日本に来てからの学習期間



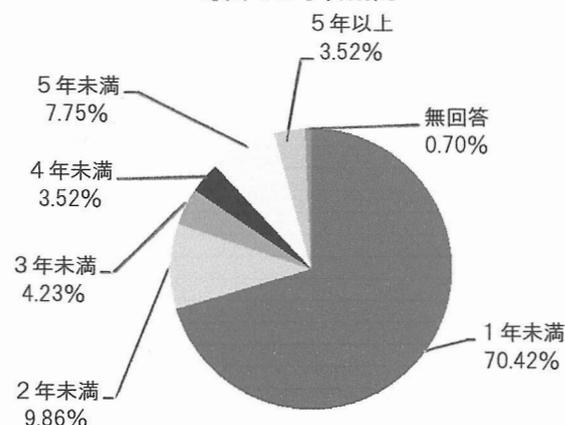
※日本に来てからの学習期間は、前回の調査に比べ1年未満の人の割合が増加している。今回の調査では42.64%だが、前回の調査では約28%で、約15%増えている。

3-1b.母国での日本語学習期間（単一回答：回答数=142人）

※約7割が1年未満となっている。

	人数 (人)	割合 (%)
① 1年未満	100	70.42
② 2年未満	14	9.86
③ 3年未満	6	4.23
④ 4年未満	5	3.52
⑤ 5年未満	11	7.75
⑥ 5年以上	5	3.52
⑦ 無回答	1	0.70

母国での学習期間

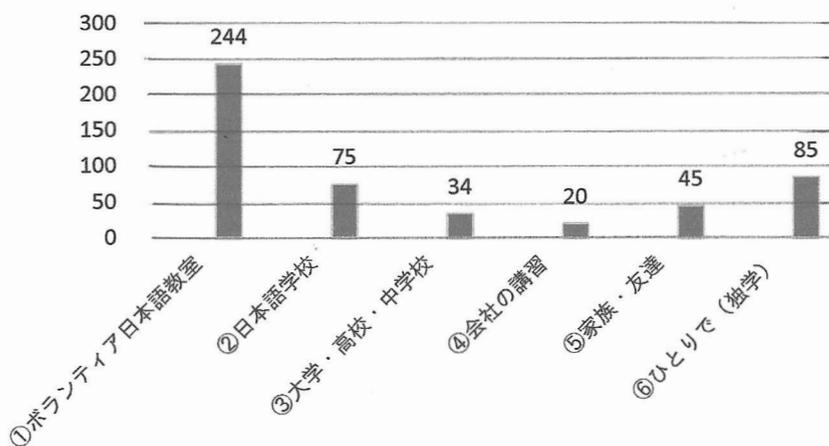


※母国での学習期間が、今回の調査では70.42%が1年未満と答えている。前回の調査では約55%だったので、1年未満の学習期間の人が約15%強増えている。この違いは、3-1aの結果とも関連するが、研修生が増えた事と関係していると考えられる。

3-2. どこで勉強（学習）していますか。（複数回答）

	人数 (人)
① ボランティア日本語教室	244
② 日本語学校	75
③ 大学・高校・中学校	34
④ 会社の講習	20
⑤ 家族・友達	45
⑥ ひとりで（独学）	85

どこで勉強（学習）していますか



※勉強の場所は「ボランティア日本語教室」が最も多く、学習の中心となっている。この質問に対する答えは、前回の調査と今回の調査と違いがないという面白い結果になった。今回の調査では、④会社の講習という質問が新たに加わった。

4 日本語の文字がわかりますか。

4-1. 「ひらがな・カタカナ」は読めますか、書けますか。（単一回答：回答数=320人）

※約9割以上の学習者が、ひらがな・カタカナ両方読み書きが出来ると回答している。

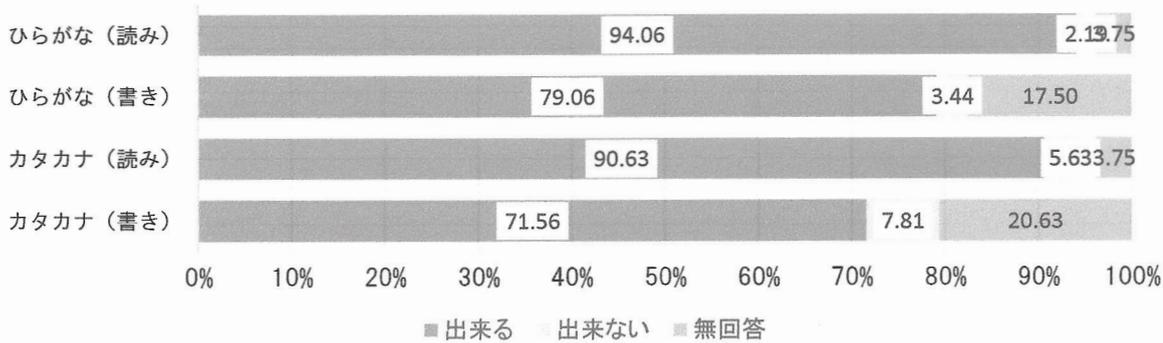
ひらがな

①読めます	301人	②読めません	7人	○無回答	12人
③書けます	253人	④書けませんが	11人	○無回答	56人

カタカナ

①読めます	290人	②読めません	18人	○無回答	12人
③書けます	229人	④書けませんが	25人	○無回答	66人

日本語の文字がわかりますか

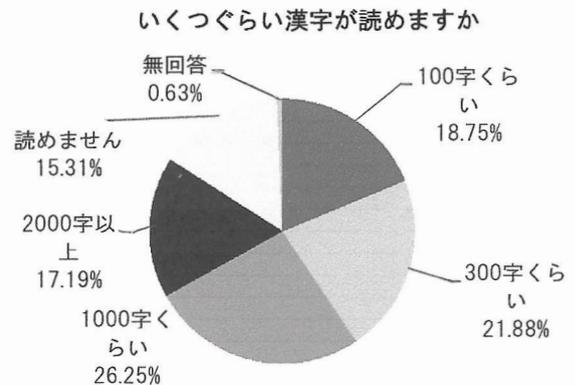


4-2. いくつぐらい漢字が読めますか。（単一回答：回答数=320人）

人数 (人) 割合 (%)

①100字くらい	60	18.75
②300字くらい	70	21.88
③1000字くらい	84	26.25
④2000字以上	55	17.19
⑤読めません	49	15.31
⑥無回答	2	0.62

※全体の15%強の学習者が「漢字が読めない」と答えている。前回の調査では9%だったので、漢字を読めない学習者の割合が増えた。

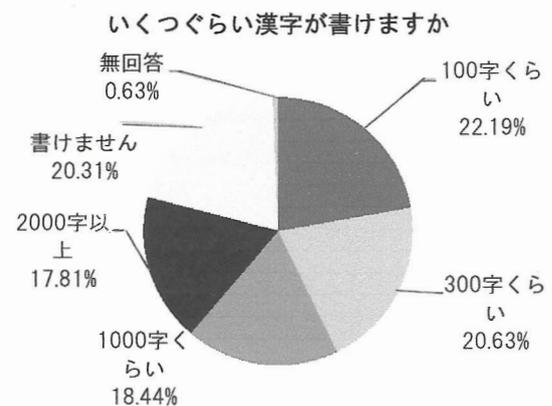


4-3. いくつぐらい漢字が書けますか。（単一回答：回答数=320人）

人数 (人) 割合 (%)

①100字くらい	71	22.19
②300字くらい	66	20.63
③1000字くらい	59	18.44
④2000字以上	57	17.81
⑤読めません	65	20.31
⑥無回答	2	0.62

※100字くらい書けると答えた学習者の割合が、100字くらい漢字が読めると答えた学習者より多いのは、中国の学習者が、中国語が書ける＝漢字が書けるという意味で答えている印象が感じられた。



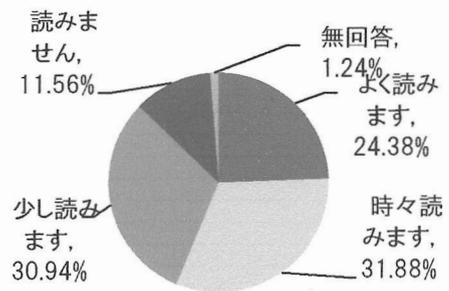
5 日本語について

5-1. 日本語の文を読みますか。(単一回答：回答数=320人)

	人数(人)	割合(%)
①よく読みます	78	24.38
②時々読みます	102	31.88
③少し読みます	99	30.94
④読みません	37	11.56
⑤無回答	4	1.24

※「少し読みます」も含めて、約9割近い学習者が日本語の文を読んでいる。

日本語の文を読みますか

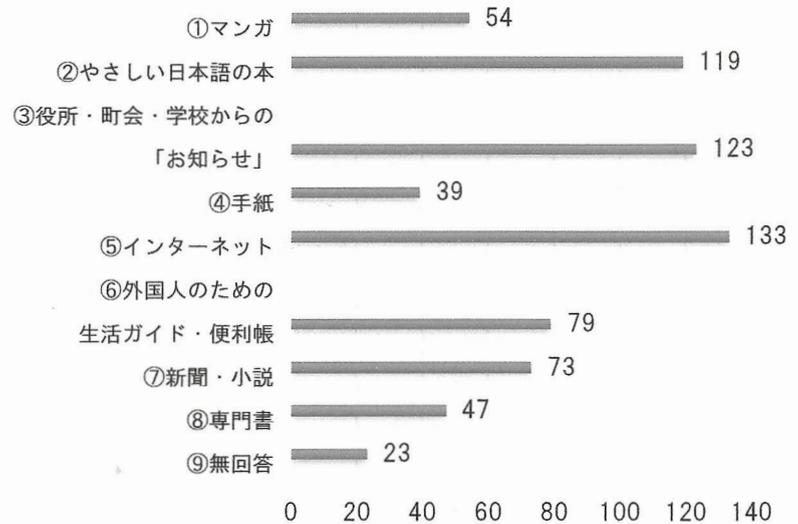


5-2. 何をを読みますか (5-1で①～③に印を付けた人：複数回答)

	人数(人)
①マンガ	54
②やさしい日本語の本	119
③役所・町会・学校からの「お知らせ」	123
④手紙	39
⑤インターネット	133
⑥外国人のための生活ガイド・便利帳	79
⑦新聞・小説	73
⑧専門書	47
⑨無回答	23

※前回の調査では「やさしい日本語の本」を読むと答えた学習者が一番多かったが、今回の調査では「インターネット」が一番になった。次いで、「役所・町会・学校からのお知らせ」が読まれている。

何をを読みますか

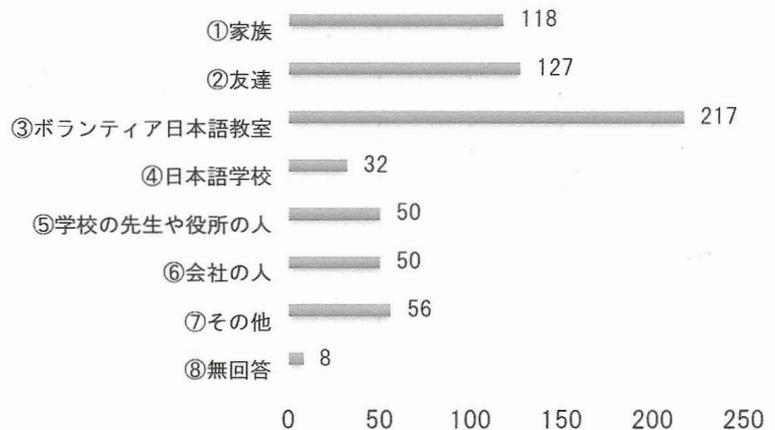


5-3. 日本の文がわからないときは誰に聞きますか (複数回答)

	人数(人)
①家族	118
②友達	127
③ボランティア日本語教室	217
④日本語学校	32
⑤学校の先生や役所の人	50
⑥会社の人	50
⑦その他	56
⑧無回答	8

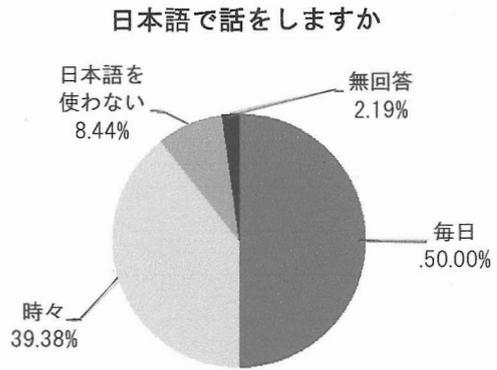
※前回の調査と変わらず「ボランティア日本語教室」で聞くと答えた学習者が最も多かった。

日本語がわからない時は誰に聞きますか



5-4. 日本語で話をしますか（単一回答：回答=320人）

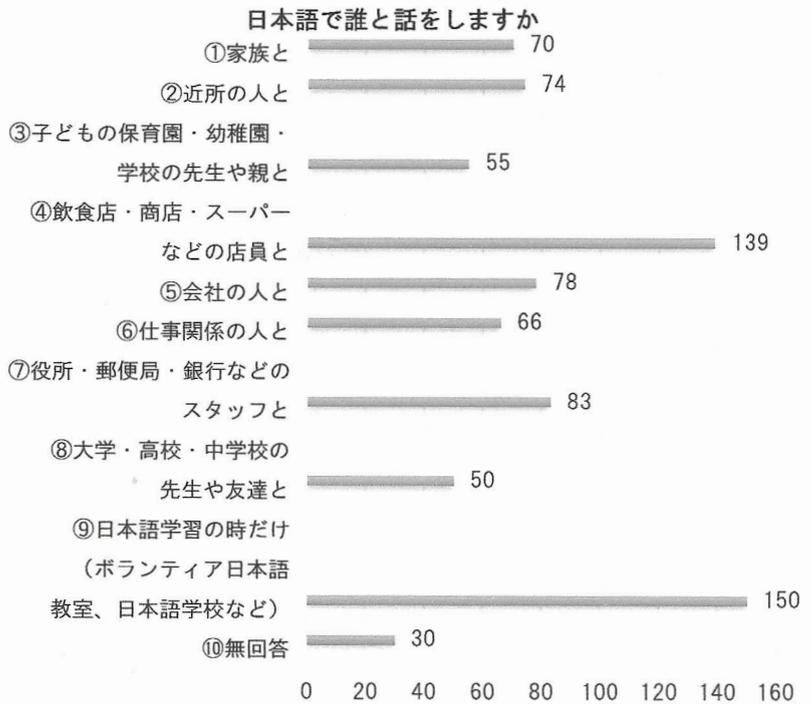
	人数（人）	割合（％）
①毎日	160	50.00
②時々	126	39.38
③日本語を使わない	27	8.44
④無回答	7	2.18



※5割の学習者が毎日日本語で話をすると答えている。
「時々」「日本語を使わない」と答えた学習者の殆どが、日本語学習の時だけ日本語を使うようだ。

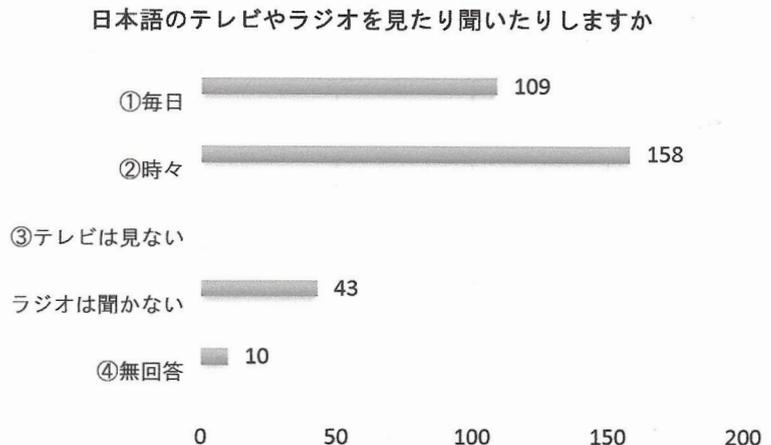
5-5. 日本語で、毎日か時々、誰と話をしますか（複数回答）

	人数（人）
①家族と	70
②近所の人と	74
③子どもの保育園・幼稚園・学校の先生や親と	55
④飲食店・商店・スーパーなどの店員と	139
⑤会社の人と	78
⑥仕事関係の人と	66
⑦役所・郵便局・銀行などのスタッフと	83
⑧大学・高校・中学校の先生や友達と	50
⑨日本語学習の時だけ（ボランティア日本語教室、日本語学校など）	150
⑩無回答	30



5-6. 日本語のテレビやラジオを見たり聞いたりしますか。（単一回答：回答=320人）

	人数（人）
①毎日	109
②時々	158
③テレビは見ない ラジオは聞かない	43
④無回答	10



6 生活に必要な情報をどこでもらいますか。(複数回答)

※「インターネット」が最も多く、次いで「ボランティア日本語教室」「友達」となった。

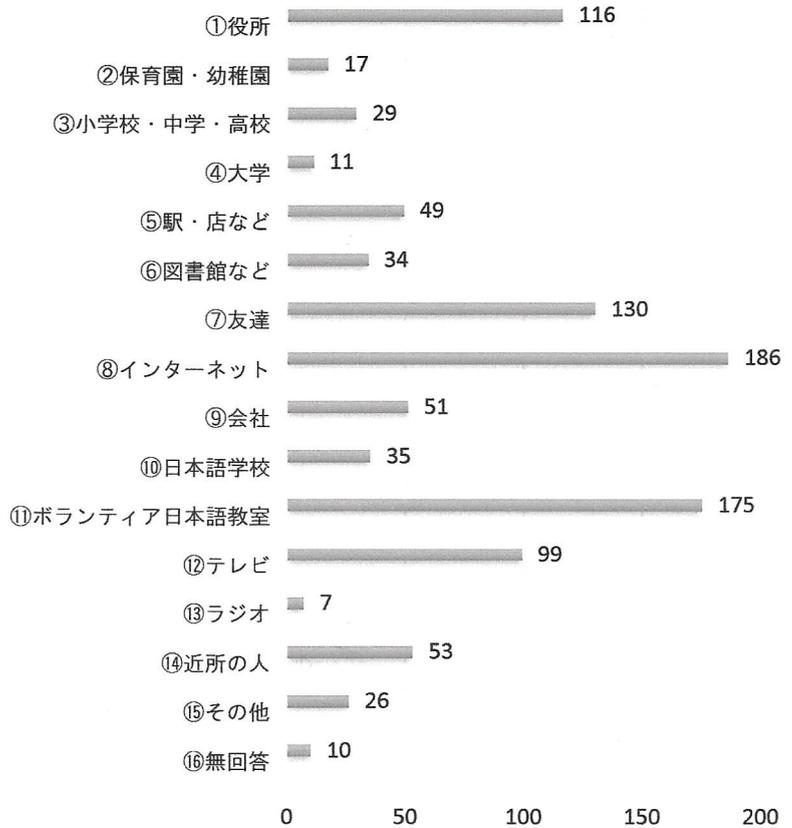
前回の調査では「ボランティア日本語教室」が最も多く、次いで「インターネット」だった。

	人数(人)
①役所	116
②保育園・幼稚園	17
③小学校・中学・高校	29
④大学	11
⑤駅・店など	49
⑥図書館など	34
⑦友達	130
⑧インターネット	186
⑨会社	51
⑩日本語学校	35
⑪ボランティア日本語教室	175
⑫テレビ	99
⑬ラジオ	7
⑭近所の人	53
⑮その他	26
⑯無回答	10

★そのほかの内容

家族、新聞、交流協会、ハローワーク、
スマホ、チラシなど

生活に必要な情報をどこでもらいますか



7 役所・学校・町会などからの「お知らせ」「生活情報」について教えてください。

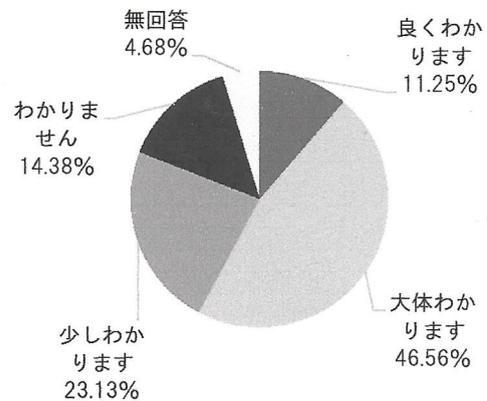
7-1. 日本語の文はどのくらいわかりますか。(単一回答：回答=320人)

※約4割の学習者が「少しわかる」「わからない」

回答しており、支援が必要である。

	人数(人)	割合(%)
①良くわかります	36	11.25
②大体わかります	149	46.56
③少しわかります	74	23.13
④わかりません	46	14.38
⑤無回答	15	4.68

日本語の文はどのくらいわかりますか

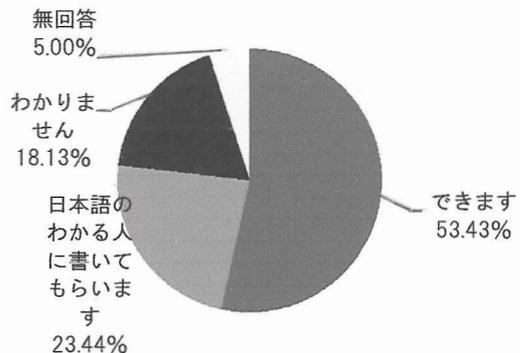


7-2. 「お知らせ」などの質問に答えることができますか。(単一回答：回答=320人)

※約4割の学習者が「書いてもらう」「わからない」と回答しており、支援が必要である。

	人数(人)	割合(%)
①できます	171	53.43
②日本語のわかる人を書いてもらいます	75	23.44
③わかりません	58	18.13
④無回答	16	5.00

「お知らせ」などの質問に答えることができますか



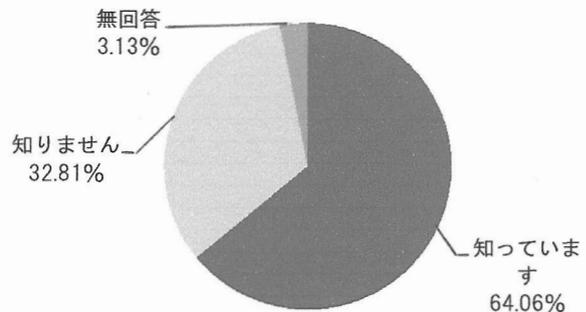
8 役所は多言語で書いた生活情報などを出しています。

8-1. 多言語で書いた情報を知っていますか。(単一回答：回答=320人)

※約3割の学習者が「知りません」と回答しており、周知が必要である。

	人数(人)	割合(%)
①知っています	205	64.06
②知りません	105	32.81
③無回答	10	3.13

多言語で書いた情報を知っていますか



この調査結果は前回の調査結果と殆ど変わっていない。

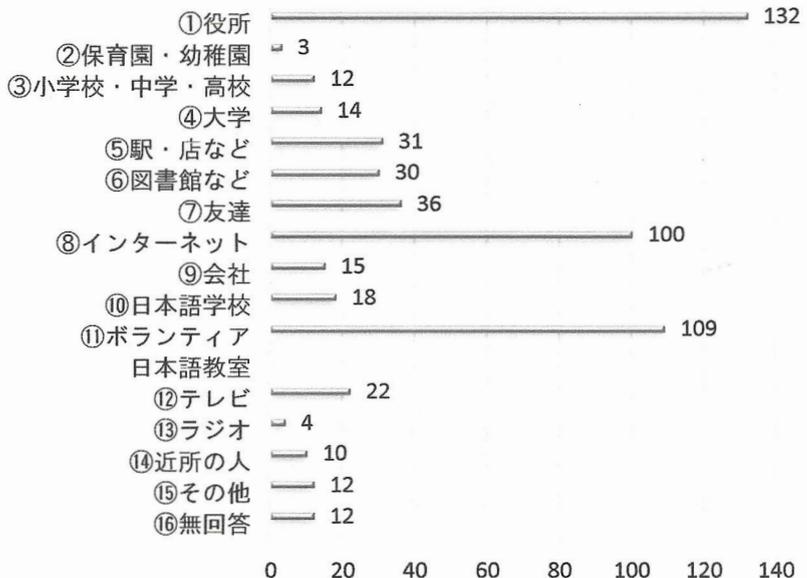
8-2. 多言語情報をどこでもらいますか。(複数回答)

※「役所」が最も多く、次いで「ボランティア日本語教室」「インターネット」の回答が多かった。

この調査結果は前回の調査結果と変わっていない。

	人数(人)
①役所	132
②保育園・幼稚園	3
③小学校・中学・高校	12
④大学	14
⑤駅・店など	31
⑥図書館など	30
⑦友達	36
⑧インターネット	100
⑨会社	15
⑩日本語学校	18
⑪ボランティア日本語教室	109
⑫テレビ	22
⑬ラジオ	4
⑭近所の人	10
⑮その他	12
⑯無回答	12

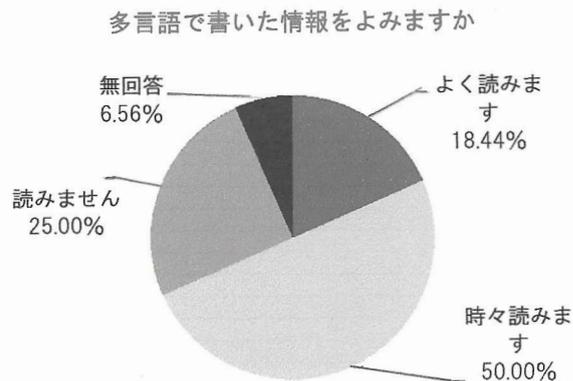
多言語情報をどこでもらいますか



8-3. 多言語で書いた情報をよみますか。(単一回答：回答=320人)

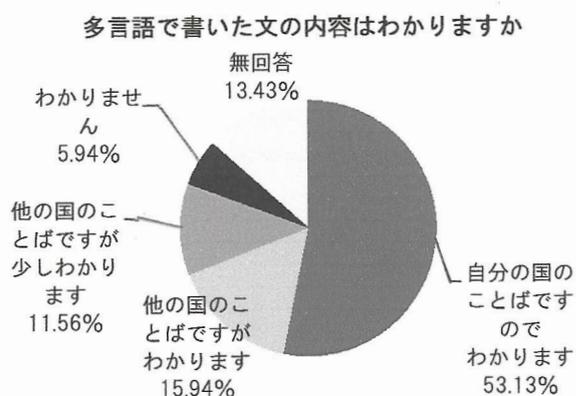
※「時々」を含め、約7割の人が「読む」と回答している。

	人数(人)	割合(%)
①よく読みます	59	18.44
②時々読みます	160	50.00
③読みません	80	25.00
④無回答	21	6.56



8-4. 多言語で書いた文の内容はわかりますか。(単一回答：回答=320人)

	人数(人)	割合(%)
①自分の国のことばですので わかります	170	53.13
②他の国のことばですが わかります	51	15.94
③他の国のことばですが 少しわかります	37	11.56
④わかりません	19	5.94
⑤無回答	43	13.43



■「自分の国の言葉ですからわかります」と回答した学習者の国。(単一回答：回答=

地域	回答数	国(回答数)
アジア	145人	中国(77)、台湾(17)、ベトナム(9)、フィリピン(7)、インド(2)、韓国(24)、香港(3)、マレーシア(1)、ミャンマー(2)、タイ(2)、日本(1)
欧州	7人	ドイツ(1)、イギリス(2)、フランス(2)、チェコ(1)、エストニア(1)
アフリカ	2人	カメルーン(1)、ナイジェリア(1)
中東	0人	
中南米	3人	メキシコ(2)、ペルー(1)
北米	10人	アメリカ(9)、カナダ(1)
オセアニア	3人	オーストラリア(1)、ニュージーランド(2)
計	170人	

■「他の国の言葉ですが少しわかります」「わかりません」と回答した学習者の国。(単一回答：回答=56

地域	回答数	国(回答数)
アジア	47人	中国(26)、台湾(3)、ベトナム(7)、フィリピン(2)、韓国(4)、ネパール(2)、バングラディッシュ(1)、タイ(1)、ミャンマー(1)
欧州	2人	イギリス(1)、スイス(1)
アフリカ	0人	
中東	1人	トルコ(1)
中南米	4人	メキシコ(1)、トリニダードトバゴ(1)
		ジャマイカ(1)、ブラジル(1)
北米	2人	アメリカ(2)
オセアニア	0人	
計	56人	

8-5. あなたは何語がわかりますか。

※母語を含め2～4語の言語がわかる学習者が多く。

【学習者がわかる言語】

英語、日本語、ドイツ語、中国語、韓国語、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、ヒンドゥー語、タイ語、北京語、ネパール語、ロシア語、エストニア語、フランス語、スペイン語、ミャンマー語、台湾語、チェコ語、マラティ語、チベット語、ポルトガル語、アラビア語、スエーデン語、デンマーク語、ポーランド語、マレー語、広東語、グジャラティ語、タミール語、ウルド語、アルバニア語、アイルランド語、トルコ語、クメール語。

8-6. 多言語でどんなお知らせが欲しいですか。

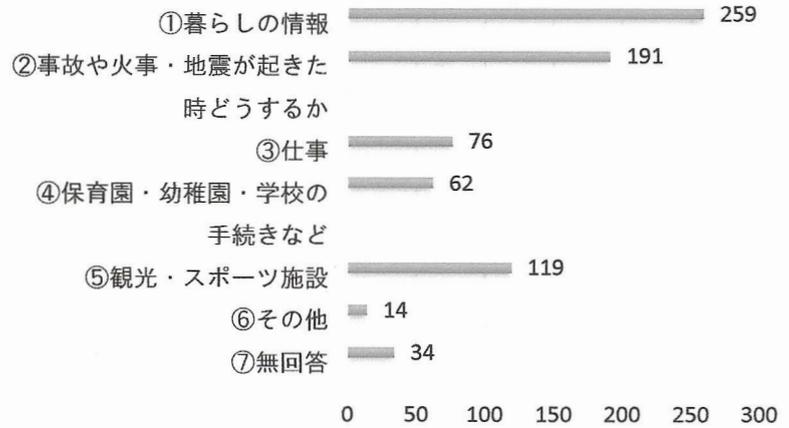
※「暮らしの情報」が最も多く、中でも「病气やけがをした時や病院のこと」に関する情報要求が高い。次いで「事故や火事・地震が起きた時にどうするか」が多い。

	人数 (人)
①暮らしの情報	259
②事故や火事・地震が起きた時どうするか	191
③仕事	76
④保育園・幼稚園・学校の手続きなど	62
⑤観光・スポーツ施設	119
⑥その他	14
⑦無回答	34

※その他の内容

文化、行事、交通手段、イベント案内、交通・アパート・レストラン情報、買い物する時の店員の言葉、手続き関係
日本のテレビプログラムなど

多言語でどんなお知らせが欲しいですか



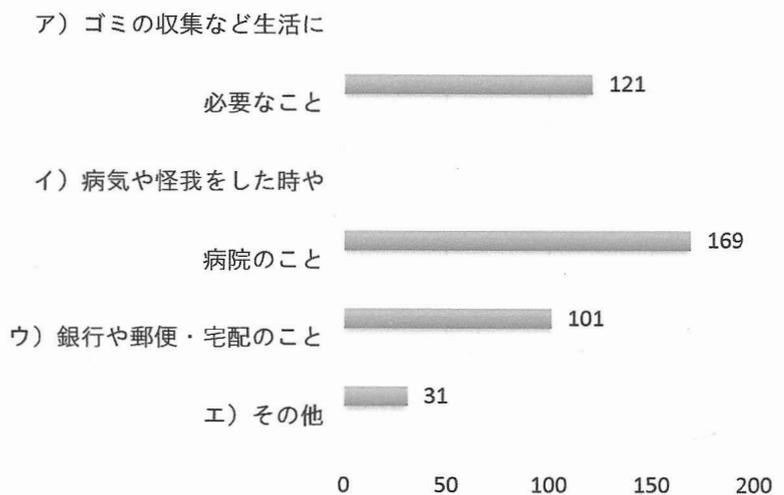
【暮らしの情報の内訳】

	人数 (人)
ア) ゴミの収集など生活に必要なこと	121
イ) 病气や怪我をした時や病院のこと	169
ウ) 銀行や郵便・宅配のこと	101
エ) その他	31

※その他の内容

日本語教室、祭り、学校、展覧会、日本人との挨拶などのマナー、国内旅行・観光案内、保険制度、学校、緊急事態が発生時、一人だった場合の対応、税金、母語が使える病院など

暮らしの情報の内訳



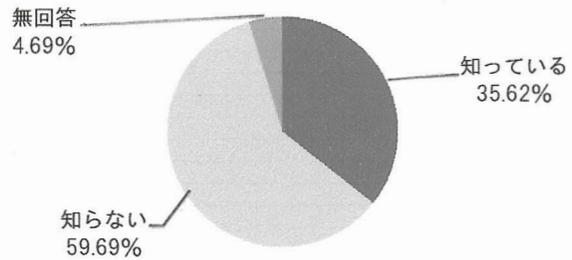
9 「やさしい日本語」について

9-1. 「やさしい日本語」で書いた「生活情報・お知らせ」が出ています。知っていますか。（単一回答：回答＝320人）

※「知らない」と答えている学習者が6割近くいる。周知が必要である。

	人数（人）	割合（％）
①知っている	114	35.62
②知らない	191	59.69
③無回答	15	4.69

「やさしい日本語」で書いた「生活情報・お知らせ」を知っていますか

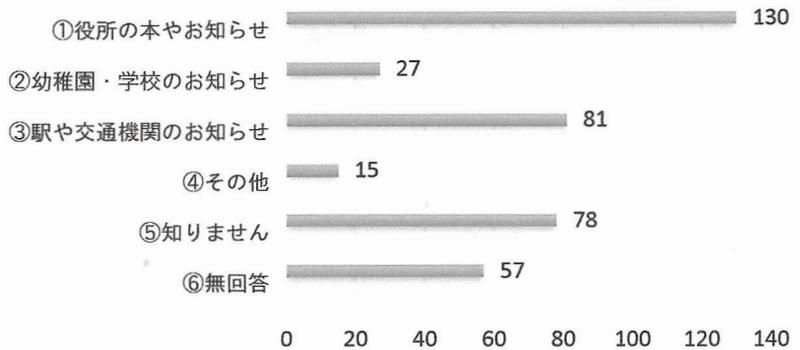


9-2. 「生活情報・お知らせ」で知っている「生活情報・お知らせ」はどれですか。

※知っている「生活情報・お知らせ」は「役所の本やお知らせ」が多い

	人数（人）
①役所の本やお知らせ	130
②幼稚園・学校のお知らせ	27
③駅や交通機関のお知らせ	81
④その他	15
⑤知りません	78
⑥無回答	57

知っている「生活情報・お知らせ」

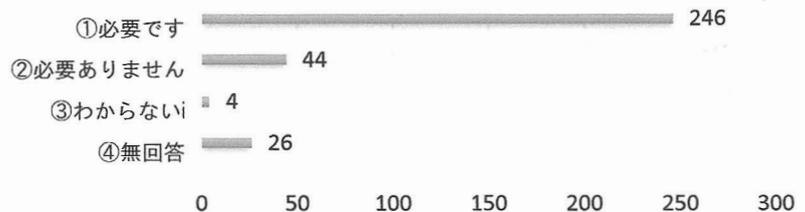


9-3. 「やさしい日本語」の情報やお知らせは必要ですか。（単一回答：回答＝320人）

※「必要です」と答えた学習者は約8割近くになる。

	人数（人）
①必要です	246
②必要ありません	44
③わからない	4
④無回答	26

「やさしい日本語」の情報は必要ですか

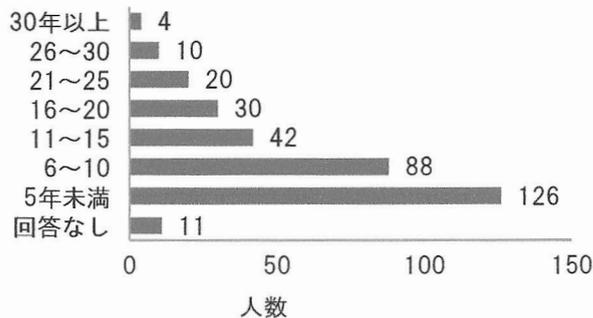


Ⅲ 日本語ボランティアからの回答・意見

(334人)

1 日本語ボランティア活動への関わり

(1) 日本語ボランティア活動の年数



活動年数5年未満の方が4割近く居られます。一方1割の方が21年以上ボランティア活動を続けていられています。4人に1人は6～10年間活動をされています。

(2) 日本語ボランティア活動を始めたキッカケは

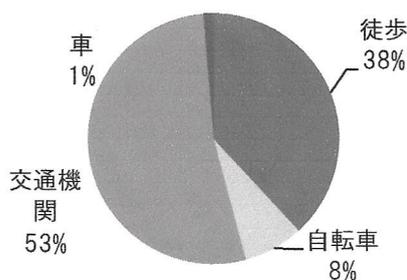
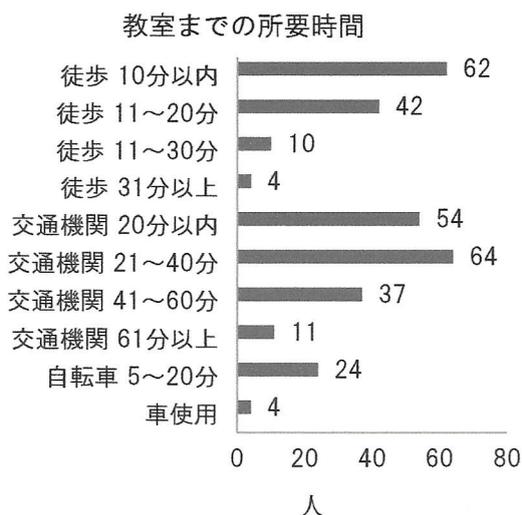
<記述紹介>

- 1 外国人支援・社会貢献・国際交流 (84)
 - ・地域在住外国人と交わりたかった、お役に立ちたかった。
 - ・地域社会で何か活動したかった。 ・地域貢献をしたいと考えた。
 - ・地域（地元）の居住外国人へのサポート
- 2 区市主催の日本語ボランティア講座 (44)
 - ・地域の日本語講習会に参加して。
 - ・区のボランティア養成講座を受講
- 3 日本語を教えたい (37)
 - ・外国人の日本語学習を支援したい。
 - ・すでに教えていた先輩に誘われて。
 - ・外国の方と日本語で交流したかった。
- 4 定年退職して (31)
 - ・会社を定年退職しボランティア活動をしたと思った。
 - ・定年退職後にボランティアを考え友人の紹介区の外国人相談窓口に来た人の支援
 - ・仕事を退職した後も国際交流に関与したい。
 - ・定年退職により自由な時間ができたから。
- 5 海外生活を経験して (27)
 - ・海外生活から帰国して民間交流の大切さを実感して。
 - ・海外生活長く定年後の社会活動として。 ・海外で現地の人にお世話になった。
 - ・中国に留学していたときに中国人にお世話になったため。
 - ・自分自身が海外にてボランティア教室に通っていたため。
- 6 日本語教師養成講座・ほか (24)
 - ・日本語教師養成講座を修了したから。
 - ・元日本語教師
 - ・中国の大学へ日本語教師として派遣された。
- 7 広報・新聞 (18)
 - ・足立区の広報で見て興味を感じる。
 - ・新聞記事の日本語ボランティア活動を読んだこと。
- 8 その他 (38)
 - ・育児中の外国人女性が日本語を学習する場がないと言ったため子どもが成長し、自分自身の活動の場が欲しかった。
 - ・勤務時に回りの外国人から日本語を質問されたこと。
 - ・友人がボランティアで海外交流ボランティアをやっていました。
 - ・家に外国人がいつも出入りしている。

(3) 活動しているボランティア日本語教室は同じ居住の区・市ですか

同じ区市	236人	74%
別の区市	83人	26%

(4) 交通機関を利用していましたか



地域での外国人支援の観点から徒歩・自転車利用がほぼ半数、しかし一方で都内の交通機関の利便性とボランティア教室との繋がりから40分以上の時間を掛けている方々も多い。

2 学習者との関わり

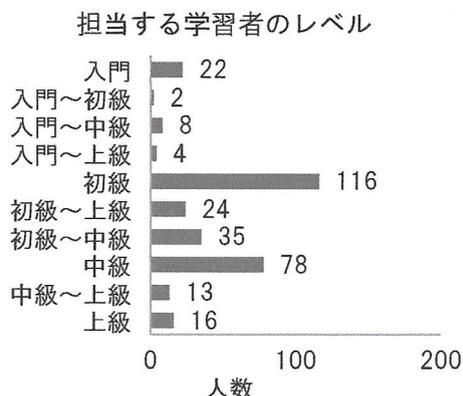
(1) 現在日本語学習支援をしている学習者について

①何人の学習者を担当していますか

担当人数	人数	%
1人	66	21.2
2人	62	20.0
3人	56	18.0
4人	23	7.4
5人	18	5.8
6人	6	1.9
7人以上	79	25.5
計	310	

担当人数が1人の場合（マンツーマン学習）は20%に過ぎず、2～3人が40%、一方で教室形式や年間で担当した学習者数7人以上が25%で多数の学習者と関わっています。

②日本語レベルはどのくらいですか



入門・初級・中級・上級レベルと限定して学習者を担当しているボランティアと広い範囲レベルで学習者に対応しているボランティアがいます。35%のボランティアが初級レベルの学習者のみを担当し、次いで中級レベルが24%です。広範囲のレベルで初級の学習者を支援しているボランティアは6割弱となっています。中級については5割で、入門レベルは1割程度です。結果からボランティア日本語教室では初級レベル・中級レベルの学習者を多く支援しています。

③学習支援の方法・内容を記入下さい

<記述紹介>

入門

- ・教科書（文化）を使って生活に必要な日本語から
- ・テキストを利用し、日常生活に必要な読み書き会話の練習
- ・入門用テキスト使用、生活面の資料
- ・学習者が持参するテキストを使用
- ・テキスト「にほんごこんにちは」、絵教材・プリント、時々媒介語を使っている。

初級

1 市販教材

- ・「いっばにほんごさんぽ」「N問題集」と自由会話
- ・「にほんごこんにちは」のテキスト使用
- ・「みんなの日本語」を使用して学習・指導
- ・「みんなの日本語」をベースにしてプリントや会話練習など

2 会話を中心に

- ・会話・教科書を使っての授業・復習・宿題
- ・自由会話中心、要望に応じてテキスト使用
- ・会話の練習希望者なのでトピックに沿ってフリートーク
- ・みんなの日本語の復習から会話重視
- ・留学生向けのテキストを使い会話中心に進める。

3 文型・文法

- ・基本文型、単語、用法の練習
- ・文型中心「みんなの日本語」初級Ⅱ
- ・「みんなの日本語」を利用して文法・文型会話指導
- ・文型などは教科書中心に進め、学習者が興味のある事柄については独自教材を使って説明している。

4 新聞・ニュース

- ・時事ニュース（簡単な物）、区からの情報、日本語文法の本
- ・新聞等を利用し日常生活に必要な日本語

5 その他

- ・講師が授業をすすめサポーターが補助（他に日をとってマンツーマンで補習）
- ・学習目標を学習者の了解を得て立案実施している日本語検定5級

中級

市販教材

- ・「日本語文型トレーニング」を使用
- ・「みんなの日本語」「日本語能力試験公式問題集
- ・教科書使用 「中級を学ぼう」
- ・N3テキスト、会話、「みんなの日本語」テキスト
- ・N4のテキスト素養・会話
- ・NHKの日本語ニュースを読む
- ・会話希望や日本語検定のお手伝い
- ・漢字、発音を中心に語彙文法を少々
- ・クラス形式・テキスト使用
- ・最新のトピックスのフリートーク後テキスト使用
- ・市販テキスト使用、読み合わせ中心
- ・小グループ形式でテキストを使用し会話練習
- ・地域の情報紙などを使った日常会話
- ・中級の本を使って文法学習
- ・日常生活で良く使用する表現集、N2問題集（文法）
- ・毎日学習者の希望するテーマについて会話と文章を書かせる。

上級

一般的な会話の中で疑問に思ったことなどの確認
学習者が読みたい日本語小説を読んで手当てする。
市販のテキストと新聞記事
新聞記事、慣用句、に中上会話など

④学習者と接してどんなことを感じていますか

<記述紹介>

学習者の学習意欲

- ・一生懸命日本語を覚えようとしている、生活の中で積極的に参加している。
- ・学習意欲が高く目的がハッキリしている人が多い。
- ・学習の意欲は個々に差はあるが毎週来ている姿を見ると楽しんでいる様に感じる。
- ・皆さん学習熱心で日本語や日本のことを勉強しているのに頭が下がる思いです。
- ・日常生活で使いたいとか、日本語検定を受けていとか、仕事に役立てたいとか動機は色々有るが皆日本語学習に非常に熱心で活気を感じる。
- ・出身国に拘わらず日本語勉強に熱心です。
- ・学習目標がはっきりしている学習者は学習に対する意識が非常に高く感じられる。

学習支援・学習上の難しさ・レベル

- ・異国の生活で苦勞している。
- ・漢字圏の人とそうでない人の漢字の壁の高さの違い。
- ・教科書で学んだ語彙は使えますが一般社会で会話をするだけの語彙力は無い。

支援の方法・支援に当たって

- ・学習者にとって必要な日本語レベルを見極めて必要なサポートをする事が難しい。
- ・いろいろなニーズがあり、各学習者に合った内容で行っている。
- ・各自の希望やレベルの違いが有るので全員の希望に応じることが難しい。
- ・学習そのものは手順を踏んで勉強していくので苦勞することはないが母国語にはない日本語の発音を定着させるのが意外に大変。
- ・個人の理解力を高めるための工夫に苦勞しています。
- ・学習者によってレベルやニーズが違っていて対応に苦勞している。
- ・学修者が理解をレベル差のあるグループレッソンの難しさを実感します。
- ・自分の思っていること（言いたいこと）を日本語で表現できない場合の支援、指導方法が難しい。
- ・初級レベルであっても各自得意不得意なことが異なり授業に工夫を要する。
- ・日本語レベルの違う人に分かるように教えるにはどうしたらよいかを考えながら授業を進めている。

学習者から学ぶ・励まされる

- ・各国の事情・文化・宗教など相互に尊重することが大切だと感じています。
- ・学習者が真面目に休まず来てくれるお陰で自分の励みになっている。
- ・学習者の体験を通して日本や日本人の外国人との係わりについて感じたり考えさせられたりする。
- ・学習のみならず日本・中国・世界の情勢・文化など幅広い話が出来て楽しくやっています。
- ・政治、宗教の介入のない日本語学習という教育の場でさまざまな母語を持った生徒さんたちと一緒に勉強することに喜びを感じている。
- ・異文化と接し双方の違和感を理解へと繋げられた時、喜びを感じる。
- ・日本語教育の難しさを再認識するとともに日本語について私自身が教わることも多い。
- ・日本文化の良いところ悪いところも知る事が出来るので感がさせられます。

日本での生活

- ・マナーが良くなった。(挨拶、ゴミ捨て、トイレの使い方)
- ・仕事中の学習者は初級 I のレベルで来なくなることが多い。
- ・楽しく学校生活を過ごせるようなアドバイスをしたり、日本語のシャワーを浴びてストレスを感じているので励ましたりしたい。

会話の機会が少ない

- ・学習した内容を会話でなかなか活かせない。
- ・学習者の能力・意欲が非常に高いが日常生活で日本語を使うチャンスが少ないので話す事を心掛け、楽しい雰囲気学習している。
- ・実際に教室外で日本語の会話をする場も相手も機会も少ないようだ。
- ・日常生活の中で、日本語教室以外で日本語と関われる時間が少ない人は、日本語の上達ペースが遅い。
- ・日本人と会話する機会がないので教室でいろいろな人に触れ合いたい人はそれぞれに勉強しながら楽しんでます。

学習者の個性

- ・一人一人個性があり、必要とされる学習内容もまた違っている。
- ・やはり個々人のバックグラウンドもある程度心得ておくべきだと思う。
- ・学習者の依ってはカナ読みしかできないレベルでも日本語の文法を理解しつつではないと進めない(納得しない)人もいるので個々の性格をみきわめるのが難しい。

その他

- ・英語でコミュニケーションがとれるので日本での在住期間の割には日本語が上達していない。
- ・日本人の友人が欲しいと思ってもその機会を得るのが難しいと感じている人が多いと思います。
- ・日本在住は長いが周りがフィリピン人ばかりで発話の機会が少ない。
- ・日本人以上に日本的なところがあり出身国に中国に対して冷静な判断を下せる。

⑤教室に参加する学習者についてどのような変化を感じていますか

<記述紹介>

滞在期間

- ・10年前は高学歴の外国人が多かったが、最近は一般的な外国人が増えているように感じる。
- ・その時々で諸外国と日本との関係の変化によって学習者の出身国構成が変化する。
- ・1~2年の短期の若い人が多いような気がする。(夜間でもあるので)
- ・短期滞在(ワーキングホリデー、旅行・観光)の学習者が増え サバイバル日本語や知識としての日本語の ニーズが増えている。

日本語学習・日本語能力

- ・以前は初級程度の学習者が多く見かけられたが今年も母国で数年間学んでから来日し更に上級を目指し仕事に役立てたい学習者が多いと感じています。
- ・学習意欲を感じるが、生活に追われて自分で学習する時間がない。
- ・学習回数が増えるほど、慣れもあって会話がスムーズになり、こちらも勉強しやすい。
- ・中国人より今はベトナム人が増えベトナムの辞書が充実していきなく学習者は苦勞している。
- ・分からないことは電子辞書やスマホですぐ調べるので支援者は楽である。

日本語・日本文化への関心

- ・新しい学習者が増えているので日本語学習に対する関心が高くなっている。日本文化についても興味が増している。
- ・学習するにつれて日本語が上達していくのはもちろんのことだが、日本や日本人に対して親しみを益している。
- ・日本語のみならず、日本の文化(生活環境)に慣れていきたいという気持ちがあり、人間としての交わりを求めてきているようです。
- ・日本文化の体験、修得よりも日本語学習が主のかたがほとんどになった。

学習者の様子

- ・無理、難しいと去って行く人、日本語を習うことで日本への理解を深めて行く人がいるように思える。
- ・以前は留学生の家族が多かったが、今は国籍も多様で、日本人と結婚した人、働きに来ている人も増えた。
- ・インドの技術系、ネパールの飲食系が目立つ、夜の授業なので男性ビジネスマンが多い。
- ・学習していく内に自信が付いてくると積極的に自分から学んだ言い回しや文型の応用文を作るようになり、理解を確かにしているようです。
- ・活動を始めた頃は韓国からのワーキングホリデーの学習者が多く勉強する基礎のある国からで意欲的だったが最近では日本に出稼ぎでくる途上国の学習者の多く長続きが難しい。
- ・経済の関係、また国と国との関係で学習者が変わっていると思います。
- ・初期は主婦の異文化交流中心、次に男性研修生来るようになり学習中心に。
- ・他の日本語学校と兼務するケースも多く、また日本語検定を受ける人も増えている。
- ・派遣会社の中には、日本語教室の代金を出さず、安いボランティア教室にと指示するところがあり、毎日各地のボランティア教室を訪ねている人がいる。
- ・ワーキングビザや親族訪問など短期滞在中に日本語を学習する方が増えてきたのはネットや口コミで日本語教室が知られてきたのだと思う。

3 他でのボランティア活動・地域での関わり

①他のボランティア日本語教室での活動している	78
活動していない	240
②地域でのボランティア活動	
活動している	101
活動していない	208

③参加している地域の活動は何ですか

下記の活動が挙げられています。

傾聴ボランティア、朗読ボランティア、観光ボランティア、動物園ボランティア、博物館ガイド、エコ活動、電話相談

児童の教科支援、小中学生の（外国人）学習支援

災害ボランティア、通訳ボランティア、国際交流ボランティア、多文化共生推進事業

特別養護老人ホームデイケアの手伝い、高齢者介護をする家族支援、老人ホーム・デイサービスでパフォーマンス、子育て支援

町会活動、避難拠点運営連絡会、交通安全（春秋）年末火の用心、健康体操

古典講読、パソコンを教える、ITサロン、写真サロン、街なかサロン、まつり

ポッチャを通しての交流、うたごえ、絵手紙、絵本の読み聞かせ（待機中）、女性団体サークル

4 日本語ボランティア活動をする上での意見・提案

今後とも日本語学習を希望する人が更に増加して来ると予想されます。多文化共生社会の推進が叫ばれている中で日本語ボランティア活動の在り方についてご意見をお願いします。

<記述紹介>

学習者の受入れ

- ・”来る人拒まず”で学習者の希望を聞き指導している。
- ・「学習者」ではなく日本と一緒に過ごしている「仲間」の意識が必要だと思います。
- ・日本語教室で学習しないまま、長く日本に住んでいる外国人をどうやって教室に来て貰えるようにできるか、日本語の出来ない定住者に学習するきっかけづくりをどうしたらできるか必要なのではないか。
- ・ボランティア団体は初級、中級など日本語習得の必要に迫られた人を中心に対応すべきだ。

行政に対して

- ・日本語を取得しようとする人の増加が予想されるにも拘わらず、行政や国は場所の提供や予算を付けようとする考えはないように思われる。
- ・日本語ボランティア活動で最大の課題は教室の確保と教室使用料の無料化などで行政機関の協力が必要。
- ・ボランティア活動をする上で、教室の確保、ボランティアの募集など様々な問題があると思う。
- ・ボランティアスタッフの高齢化がどの団体でも多いのでスタッフを増やすことが急務。
- ・いつでも誰でもどこでも日本語学習の出来る環境の整備に政府・自治体の予算化、日本語教育推進のための施策等が望まれる。
- ・各自治体による支援者養成や活動場所（教室）提供等のボランティア活動支援体制のより一層の充実をお願いします。
- ・夜間教室は数が少ないので参加希望者が多く、部屋の狭さスタッフ不足が悩みです。
- ・行政との連絡会などから、この活動が本当に地域のためになっているか、共生の意図・目的の明確さ及びそれを反映した行政活動が見当たらない。
- ・各小中学校と日本語を母語としない人に対してや保護者への支援が必要である。
- ・行政等の伝達についても、タイムリーに行うようにしているが、学習者の流れが激しくなかなかタイムリーにはできず、学習者への対応は何処まで行うか非常に難しい。
- ・行政の理解がない（ボランティアは自分の好きでやっている人でしょという感じがする）

学習者への対応

- ・明日からすぐ使える日本語の力をつけることが、地域日本語教室の役割だと感じています。
- ・あまり大きなお手伝いは出来ませんが、日本語学校とは違う肩に力が入らない楽しい会話から細かな話しことばや文化などを伝えて行けたらなと思います。
- ・幾つかの地域では独自のテキストを作成しているようだが、良く取り上げられるテーマを軸に組織全体・共通のテキストを作成してみたらどうか、特にボランティア初心者に対して効率的な導入の教育が出来ると思う。
- ・限られた時間の中で日本語を修得させることは簡単ではないが、一人では出来ないことを教室のボランティアが纏まって（共通認識・情報共有を重ねて）共通の目標をベースに楽しく活動が出来ると良いと思います。
- ・学習者の状況により、ニーズや時間場所設定が多様化していることに応じて支援も多様化する必要がある。
- ・日本語はもちろんだが、お祭りのような行事だけでなく、生活支援のボランティアも大切であると考えます。
- ・学習者のニーズに合わせた学習内容（特に初心者には地域で生活していくのに困らないような生活に必要な日本語）を教えていきたい。
- ・学習者の日本での生活に必要な日本語・情報（病院情報等）を提供すると共に文化の考え方も知ってボランティア自身も向上していけると良いと思う。

学習者への対応 (つづき)

- ・学習者の日本への興味や日本語学習意欲を高めるために日本語学校とは異なった、生活に密着した丁寧な指導が必要だと感じます。
- ・小学生・中学生等子どもの外国人が増えている中、子ども達に日本語を教えるだけでなく学習支援の必要性を感じる。
- ・日本語のレベルも必要とする場面も多様化しているので、教室の形も多様化していったほうが良いように思う。お年寄りの外国の方へのサポート／学校入学の子どもへのサポート・駐在員の奥様サポート etc
- ・日本語を教える事は勿論ですが知り合いのない外国人が日本に来たときに身近で色々相談出来る存在である事も日本語ボランティア活動では大切だと思っています。
- ・日本語ボランティア活動の質の向上と高齢化が進んでいるので、少し若い世代の人も振ると良いと思います。
- ・講師側の、日本語力(語学、芸術etc)の不足が自分も等しく痛感される。交流の場や日本語学校に近い支援等、様々なニーズに応じられるよう、ボランティア活動に求められているのが現実でありため、支援者個人の自覚と学ぶ姿勢がより重要となっていくと思います。

情報の共有・交流

- ・TNVNの仲介で他ボランティア団体との情報共有の場が有ると良い。
- ・異文化理解を深めるには学習者同士の交流も必要。
- ・各日本語ボランティア教室(ボランティア同士、学習者同士)との交流を持ち活動内容、取り組みのアイデアを掴みたい。
- ・各ボランティア教室でそれぞれ独自に活動しているが、ガイドラインのようなモノが有ればと思う。
- ・地域社会における問題解決の回路として役割を担うべきもので有ると考えている。
- ・母国語での学習すらままならないレベルの人にどうやって外国語としての日本語を教えるか、方法論をボランティア団体同士で共有・学習者の日本への興味や日本語学習意欲を高めるために日本語学校とは異なった、生活に密着した丁寧な指導が必要だと感じます。
- ・小学生・中学生等子どもの外国人が増えている中、子ども達に日本語を教えるだけでなく学習支援の必要性を感じる。
- ・日本語のレベルも必要とする場面も多様化しているので、教室の形も多様化していったほうが良いように思う。お年寄りの外国の方へのサポート／学校入学の子どもへのサポート・駐在員の奥様サポート etc
- ・日本語を教える事は勿論ですが知り合いのない外国人が日本に来たときに身近で色々相談出来る存在である事も日本語ボランティア活動では大切だと思っています。
- ・日本語ボランティア活動の質の向上と高齢化が進んでいるので、少し若い世代の人も振ると良いと思います。
- ・講師側の、日本語力(語学、芸術etc)の不足が自分も等しく痛感される。交流の場や日本語学校に近い支援等、様々なニーズに応じられるよう、ボランティア活動に求められているのが現実でありため、支援者個人の自覚と学ぶ姿勢がより重要となっていくと思います。

5 外国人との関わり

東京都の在住外国人は平成29年7月1日現在50万4千人で総人口1,310万人の3.8%（23区：4.8%、市部：1.9%）となりました。平成28年に東京都を訪れた外国人旅行者数は約1,310万人（対前年比10.2%増）で奇しくも東京都総人口の人数に匹敵します。

日常生活の場や交通機関・町中で外国人との触れ合い・コミュニケーションの機会も増えていきます。日本語ボランティア活動を活かして普段の生活で皆さんは外国人とどの様に接していますかお尋ねします。

- (1) 多文化共生社会の推進についてご存じですか

知っている	228
知らない	69

- (2) 東京都や地域での取組みは如何ですか

関心あり	267
感心なし	27

- (3) 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えて「おもてなし」が叫ばれています。おもてなし講座へ参加しましたか

		人数	割合[%]
「おもてなし」の講座に参加した人は14.7%で、今後参加したい人が38%です。 参加しない26%、関心ないし21.3%でほぼ半々です。	参加した	43	14.7
	参加しない	76	26.0
	参加したい	111	38.0
	感心なし	62	21.3

- (4) 隣近所やマンション内に外国人は住んでいますか

	外国人の居住	人数
6割の人が近隣・マンションに外国人が住んでいるとしています。	住んでいない	117
	住んでいる	171

- (5) 挨拶・会話をしますか

		人数	割合[%]
1/4の人が外国人と挨拶しないとしている一方1/4は会話をするとしています。 3/4の人は何らかの形で近隣・マンション住んでいる外国人と挨拶をしています。	会話をする	49	23.2
	挨拶する	111	52.6
	挨拶しない	51	24.2

- (6) 会話をする時の話題はどんな内容ですか

天気・天候についての簡単な挨拶が多く、その際 家族の話、仕事のこと、運動など、更にはお祭り、買い物、健康、マンションや地域の事などの話をしています。
加えて子どもについての話（子どもの宿題を見てあげたなど）が多いようです。
日常生活の話題では困ったことがないか、生活をする際の疑問など、日本語の学習、飼っているペットのこと、近くの施設のことなど話題は広がっています。
そして、普通の日本人相手と同じ様に会話をし、他の日本人と同様 子どものこと、近況報告、相手の国について、日本での生活、交通機関や観光地・・・

回答団体・教室名（順位不同）

あきる野日本語サークル、あとむ日本語教室、日本語ボランティアめいめい、にほんごクラブ・ゆう、日本語教室グループ・リンク、日本語交流クラブ、サークルやまとことば、やさしい日本語、話しましょう日本語を、グループ・ドメニカ、めじろ日本語サークル、しゃべろう日本語、光が丘ことばの会、杉並日本語会話の会、くりはら、アジアと交流する市民の会、たのしい日本語、たのしい日本語ひろば、日本語を話しましょう、まちだ地域国際交流協会、すみだにほんごボランティア21、初歩日本語、はじめてのにほんご、ビバ日本語教室、本所賀川記念館日本語教室、早稲田奉仕園日本語ボランティアの会、西大井日本語教室、ミンガラ日本語教室、武蔵村山日本語の会、世田谷日本語クラス、みんなの日本語教室、NPO・IWC国際市民の会、江戸川にほんご交流会B、高輪日本語教室、八王子にほんごの会、小平日本語ボランティアの会一橋学園、グッドナイト日本語、こんにちばにほんご、江戸川にほんご交流会AC、東京YWCA「いちごの部屋」、にほんご生活、高輪日本語の会、あつまれ日本語ひろば、日本語サークル「わかば」、小平市国際交流協会日本語会話教室、日本語ボランティア翼の会・夜の部、プラチナ日本語教室、JCA千歳船橋、大泉学園さくら日本語教室、文京日本語交流員の会、社会福祉法人さぼうと21、ウィローズ・コミュニケーション、江戸川にほんごクラブ、日本語で遊ぼう、日本語会話サロン、にほんごボランティアコスモス、町田にほんごスクールネット、目黒ユネスコ日本語教室、日野国際友好クラブ、弥生日本語の会、中央区文化・国際交流協会、かけはし、千駄ヶ谷日本語の会、多文化子ども自立支援センター、町田日本語の会、日本語学習会さくら会、LTC友の会・木夜クラス、LTC友の会・高井戸教室、LTC友の会・阿佐ヶ谷教室、小平楽しい日本語の会、にほんごの会くれよん、中野区国際交流協会、東久留米にほんごクラス、スペース・アイ、しば日本語クラブ、浅草日本語道場、港区国際交流協会、MJC日本語クラス、にほんごの会いろはインターナショナル、ちよだ日本語カフェ「Swan」、にほんごの会〜どんぐり、サークル・ニアオ、あおぞら、町田国際交流センター、日本語ぐるりっと、TIC日本語教室・多摩センタークラス、にほんご学習すぎなみの会、日本語教室・高円寺、江戸川日本語クラブやまびこ、KUNIFA日本語サポート、小金井市生活日本語教室、国分寺市国際交流協会・日本語教室（夜）、立川国際友好協会（外国人のための日本語教室）、調布市国際交流協会、NIA西東京市国際交流協会、You-I日本語教室、「日本語」で交流・虹の会、「日本語」で交流・虹の会（金曜日）、TIC日本語教室、日本語ボランティア翼の会・昼の部、東久留米国際友好クラブ（日本語教室）、東村山地球市民クラブ、日野市国際交流協会日本語教室、福生国際交流協会、ピナット子ども学習支援教室、ピナット日本語教室水曜日、ピナット日本語教室日曜日、武蔵野市国際交流協会、一般社団法人・OCNet、フレンド日本語教室、八王子国際友好クラブ日本語教室、にほんごの会談話室、地球家族、地球市民交流会、にほんご友の会、日本語グループWAIWAI、南多摩日本語の会、外国人生徒学習の会、板橋区文化交流財団日本語教室、日本語教室ともだち、こども日本語教室あそぼ、言の葉、あかつか日本語教室、実用日本語教室、飛鳥にほんごファミリー、ジョイナス日本語くらぶ、日本語で話そう、日本語教室「なでしこ」、ふれあい、F & Sの会、国際江戸端会議・日本語サロンedobata、ICN駒場日本語教室、Otaにほんご広場、日本語サロン、日本語コミュニケーション・パートナー、日本語サロン、日本語の会さくら、生活の日本語、木ようびの日本語、みんなの日本語、渋谷区日本語教室、あけぼの会・曙橋日本語教室、あけぼの会・角筈日本語教室、わかば、NPO法人アジア交流支援協会（日本語を話す会）、四谷日本語サークル、さくら日本語サークル、ひまわり日本語教室、きらら日本語教室、にこにこ日本語、立教日本語教室、上石神井ふれあい日本語教室、春日町にほんご教室、豊玉日本語の会、練馬日本語サークル、日本語ひろば、関町日本語ひろば、日本語クラブ☆いずみ、田町日本語教室、芝久保日本語教室、南大沢日本語サークル、北区学び場Let's Study、緑が丘日本語チャット、日本語教室「地球の仲間」、日本語ふれあいひろば、北区日本語テラス、日曜にほんご会話サークル、しおみ日本語の会、コスモスクラブ日本語教室、日本語ルーム、MIC三田インターナショナルクラブ、日本語サークルこんにちば、にほんご教室赤羽、KOKOの会、日曜にほんごクラブ、小川日本語ひろば、桜台たのしい日本語、あるく会、ANC（赤坂日本語クラブ）、「板橋本町」国際文化交流教室、西東京日本語教室

調査報告書

調査対象 東京都内で活動しているボランティア日本語教室と
日本語学習者及び日本語ボランティア
発行日 2018年2月

編集・発行 東京日本語ボランティア・ネットワーク
事務所 〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ 10F
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス NO.4

E-mail : webadmin@tnvn.jp
URL : www.tnvn.jp

責任者 梶村 勝利
スタッフ・作業者 神 歩、林川 玲子、岡田 美奈子、山内 眞理
小川 伶子、大木 千冬、床呂 英一

助成 「平成29年度東京都在住外国人支援事業助成」対象事業
Supported by the Tokyo Metropolitan Government in fiscal year 2017